

第4章 地区別にみた公共施設の現状と課題

第4章 地区別にみた公共施設の現状と課題

1 地区の状況

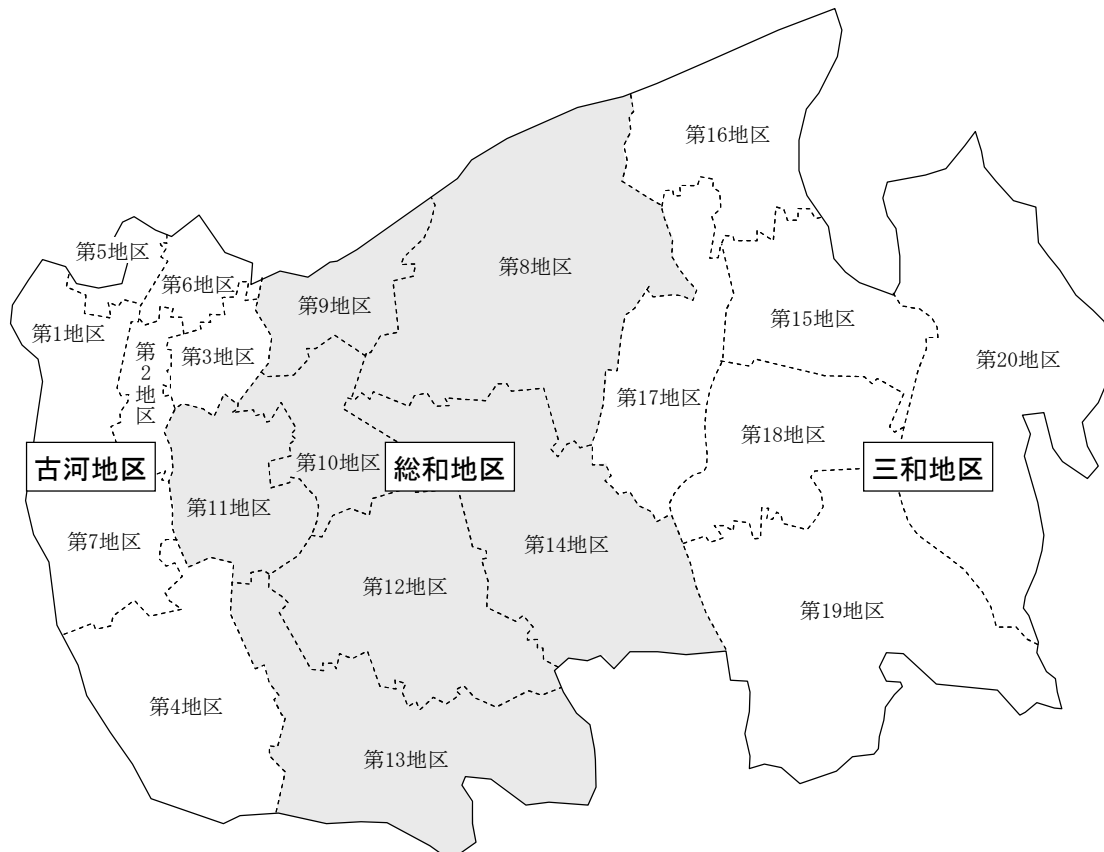
公共施設は身近な地域・地区の施設として、学校教育、社会教育、地域コミュニティ、消防、防犯等行政サービスの提供、地域活動・住民活動の拠点として重要な社会的機能を担っています。このため公共施設の配置や整備においては、地域の実情や行政需要に対応することが必要となります。

第1章でみたとおり、本市は合併後の平成20年に地域コミュニティを再編し、20地区の行政自治会を設置しました。市では、市民が自主性・地域性を発揮したコミュニティ活動を展開できるよう、この行政自治会の区域をベースにさまざまな環境整備や支援策等を考えていく必要があります。本章では、この20地区別に公共施設の状況をみていきます。

(1) 区域の状況

平成24年現在、行政自治会の区域は古河地区7地区、総和地区7地区、三和地区6地区が設置されています。概ね小学校区、消防団区をベースに、人口・世帯の規模、歴史的経緯、地形地物の状況、市民の生活行動等を総合的に判断して区域が設定されています。このため、地区の大きさは広狭さまざま、一律ではありません。人口密度が高い古河地区では1地区当たりの面積が狭小であるのに対して、総和地区、三和地区では1地区当たりの面積が広大で、特に工業団地や農地の比率が高い地区では、この傾向が強くみられます。

図表4-1 行政自治会の区域の状況

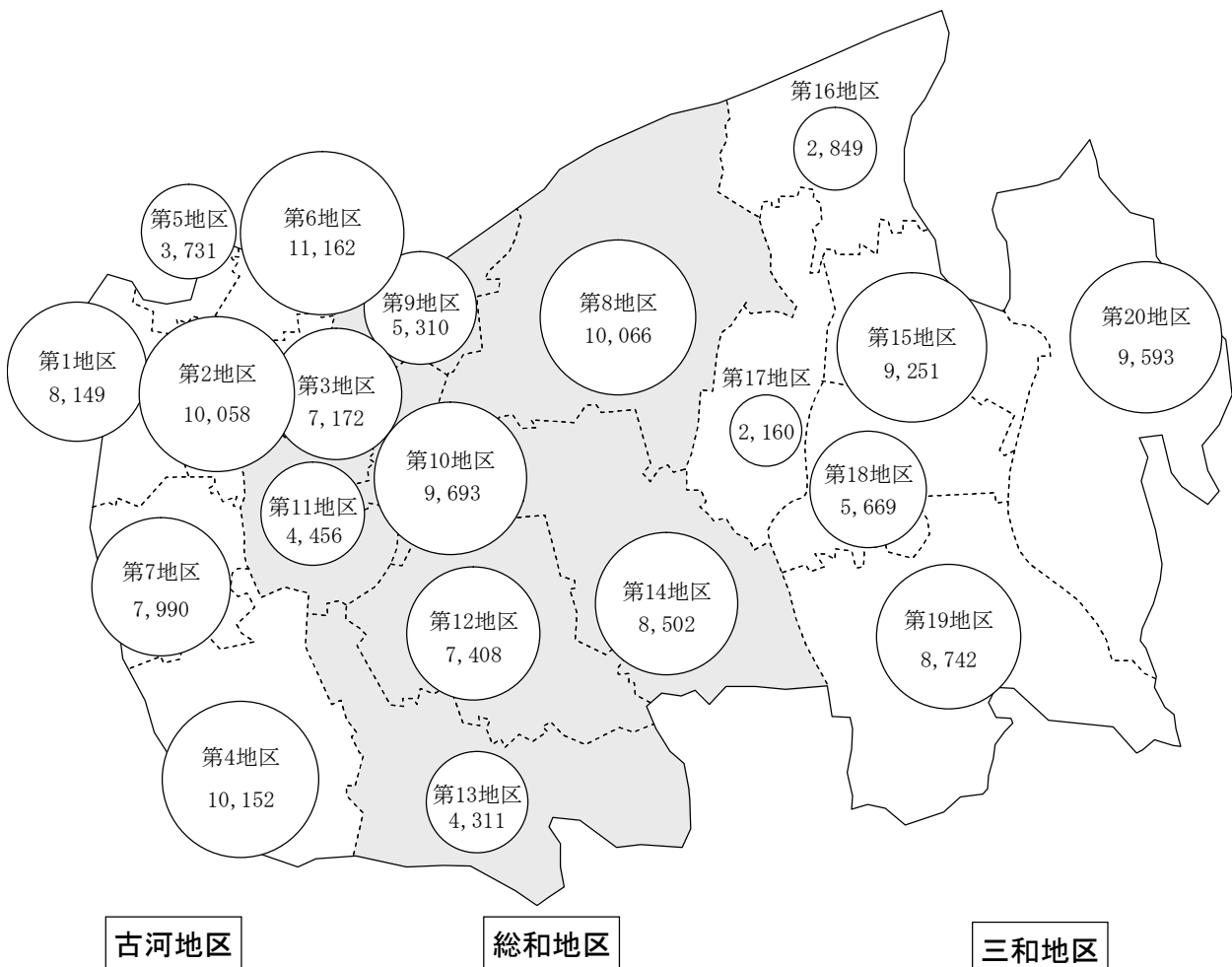


(2) 地区の人口・人口構造

平成24年現在の本市の人口は14.6万人で、行政自治会1地区当たりの平均人口は約7,300人となります。しかし、行政自治会は人口規模が一律ではありません。最大は第6地区（古河地区）の1万1,162人、最小は第17地区（三和地区）の2,160人で、両者には約5倍の格差があります。人口規模別でみると、5,000未満は5地区、5,000以上1万未満は11地区、1万以上は4地区となっています。人口規模の違いにより行政サービスの需要は異なるため、地域の施設のボリューム（数、延床面積）にもバランスをとる必要が生じます。

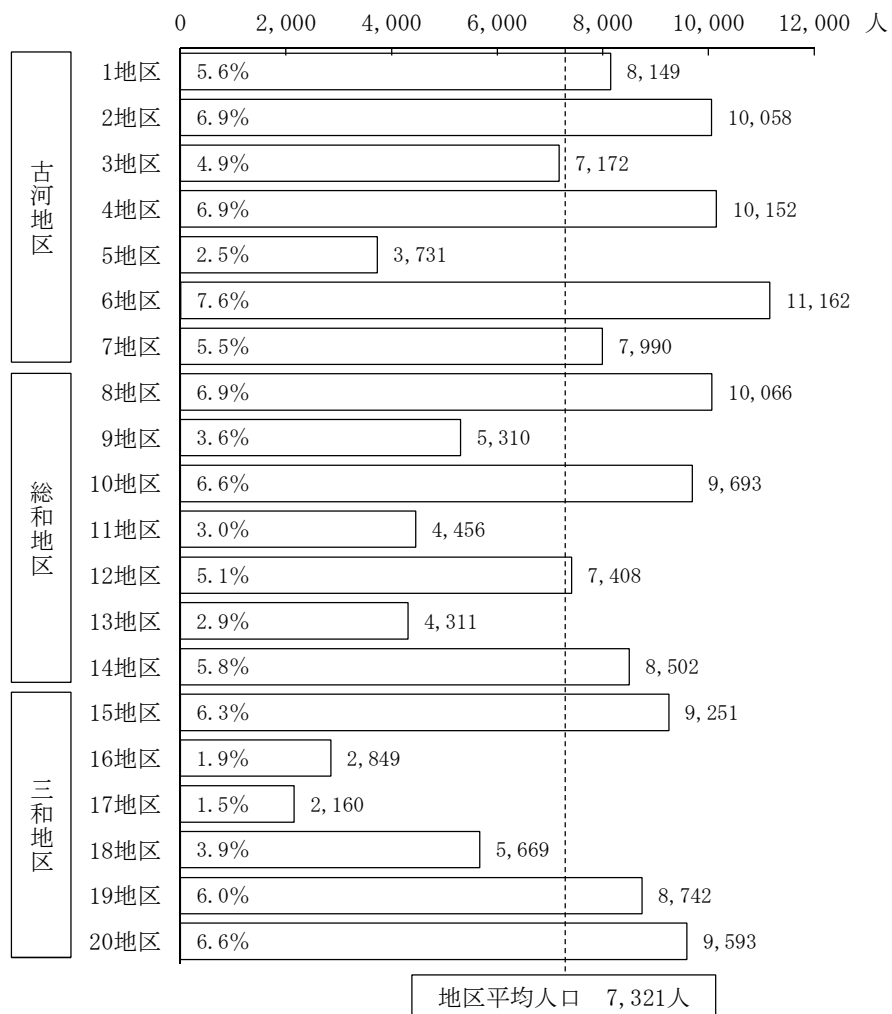
また、人口構造も地区によって異なります。本市の人口構成は15歳未満の年少人口比率が13.4%、15～64歳の生産年齢人口が65.3%、65歳以上の老年人口が21.3%となっています。少子化の状況を見ると、少子化が最も進行した第1地区（年少人口比率9.9%）をはじめ、市平均よりも少子化が進行している地区は13地区あります。高齢化の状況を見ると、第1地区と第5地区では老年人口の比率が29.4%に達して最も進行しており、両区を含め市平均よりも高齢化が進行している地区は6地区あります。人口構造が異なると、地域で必要となる公共施設の種類が異なります。例えば、子育て世帯が多い地区では学校施設や子育て支援系施設が必要となります。

図表4-2 地区別の人口の状況（1）



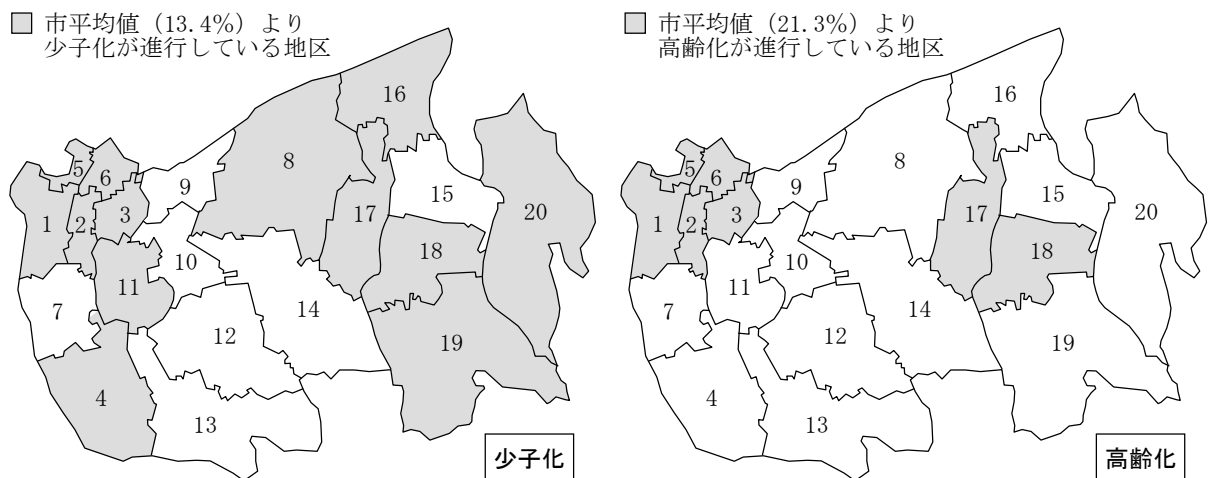
資料：古河市

図表4-3 地区別の人口の状況(2)



資料：古河市

図表4-4 地区別にみた人口構造の状況(1)



資料：古河市

図表4-5 地区別にみた人口構造の状況(2)

	0%	50%	100%
市平均	13.4%	65.3%	21.3%
1地区	9.9%	60.7%	29.4%
2地区	11.5%	62.5%	26.0%
3地区	12.0%	62.4%	25.6%
4地区	12.8%	66.6%	20.6%
5地区	10.6%	60.0%	29.4%
6地区	12.1%	64.3%	23.6%
7地区	16.2%	66.7%	17.1%
8地区	12.8%	66.8%	20.4%
9地区	13.5%	66.9%	19.5%
10地区	17.0%	67.3%	15.7%
11地区	12.6%	66.9%	20.5%
12地区	15.5%	65.0%	19.5%
13地区	13.6%	67.3%	19.1%
14地区	16.9%	64.4%	18.7%
15地区	15.3%	65.3%	19.4%
16地区	11.7%	67.6%	20.7%
17地区	10.1%	68.3%	21.6%
18地区	12.1%	66.6%	21.3%
19地区	13.1%	66.7%	20.2%
20地区	13.0%	67.0%	20.0%

年少人口

生産年齢人口

老年人口

(注) 小数点2位以下を四捨五入しているため割合(%)の合計は100.0%にならない

資料: 古河市

行政自治区と学校区との関係も地区によって違いがみられます。古河地区と三和地区では、行政自治区の区域と小学校区は同じ区域が設定されています。これに対して、総和地区の7地区は両者のエリアが整合していません。第10地区は4つの小学校区に、第8地区、第9地区は3つの小学校区に、第11地区、第12地区、第13地区、第14地区は2つの小学校区にまたがるエリアとなっています。

図表4-6 市内各地区の概況（人口・世帯・人口構造・学校区）

地区	人口 (人口比)	世帯	人口構造			学校区		地域特性	
			年少人口 (15歳未満)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	小学校区	中学校区		
古河地区	1	8,149 (5.6%)	3,508 (6.2%)	809 (9.9%)	4,948 (60.7%)	2,392 (29.4%)	古河第一	古河第一、古河第二	住宅地・商業地。歴史・文化・観光ゾーン。古河庁舎が立地
	2	10,058 (6.9%)	4,414 (7.8%)	1,156 (11.5%)	6,286 (62.5%)	2,616 (26.0%)	古河第二	古河第一、古河第二、古河第三	古河駅が立地する市の玄関口。大型マンションが増加
	3	7,172 (4.9%)	2,975 (5.2%)	858 (12.0%)	4,476 (62.4%)	1,838 (25.6%)	古河第三	古河第三	住宅地・商業地
	4	10,152 (6.9%)	3,999 (7.0%)	1,301 (12.8%)	6,763 (66.6%)	2,088 (20.6%)	古河第四	古河第二	農地・住宅地
	5	3,731 (2.5%)	1,607 (2.8%)	395 (10.6%)	2,238 (60.0%)	1,098 (29.4%)	古河第五	古河第一	住宅地
	6	11,162 (7.6%)	4,642 (8.2%)	1,350 (12.1%)	7,173 (64.3%)	2,639 (23.6%)	古河第六	古河第一	住宅地
	7	7,990 (5.5%)	3,044 (5.4%)	1,296 (16.2%)	5,329 (66.7%)	1,365 (17.1%)	古河第七	古河第二	農地・住宅地
総和地区	8	10,066 (6.9%)	3,958 (7.0%)	1,288 (12.8%)	6,728 (66.8%)	2,050 (20.4%)	上大野、小堤、中央	総和、総和北	農地・住宅地
	9	5,310 (3.6%)	2,121 (3.7%)	719 (13.5%)	3,553 (66.9%)	1,038 (19.5%)	西牛谷、小堤、上辺見	総和、総和北	農地・住宅地。古河駅東部土地区画整理地
	10	9,693 (6.6%)	3,824 (6.7%)	1,648 (17.0%)	6,528 (67.3%)	1,517 (15.7%)	上辺見、下辺見、西牛谷、中央	総和、総和北	住宅地
	11	4,456 (3.0%)	1,766 (3.1%)	560 (12.6%)	2,982 (66.9%)	914 (20.5%)	下辺見、上辺見	総和、総和南	農地・住宅地
	12	7,408 (5.1%)	2,804 (4.9%)	1,148 (15.5%)	4,814 (65.0%)	1,446 (19.5%)	釈迦、駒羽根	総和、総和南	農地・住宅地
	13	4,311 (2.9%)	1,458 (2.6%)	585 (13.6%)	2,901 (67.3%)	825 (19.1%)	釈迦、水海	総和南	農地・住宅地
	14	8,502 (5.8%)	2,963 (5.2%)	1,437 (16.9%)	5,474 (64.4%)	1,591 (18.7%)	下大野、中央	総和、総和南	農地・住宅地・工業団地。総和庁舎が立地
三和地区	15	9,251 (6.3%)	3,538 (6.2%)	1,414 (15.3%)	6,042 (65.3%)	1,795 (19.4%)	諸川	三和北	農地・住宅地
	16	2,849 (1.9%)	985 (1.7%)	333 (11.7%)	1,925 (67.6%)	591 (20.7%)	駒込	三和北	農地・住宅地・山林
	17	2,160 (1.5%)	753 (1.3%)	218 (10.1%)	1,476 (68.3%)	466 (21.6%)	大和田	三和北	農地・住宅地
	18	5,669 (3.9%)	2,034 (3.6%)	684 (12.1%)	3,776 (66.6%)	1,209 (21.3%)	仁連	三和	農地・住宅地。三和庁舎が立地
	19	8,742 (6.0%)	3,061 (5.4%)	1,143 (13.1%)	5,832 (66.7%)	1,767 (20.2%)	八俣	三和	農地・住宅地
	20	9,593 (6.6%)	3,353 (5.9%)	1,247 (13.0%)	6,429 (67.0%)	1,917 (20.0%)	名崎	三和東	農地・住宅地
市全体	146,424 (100.0%)	56,807 (100.0%)	19,589 (13.4%)	95,673 (65.3%)	31,162 (21.3%)	23校区	9校区	-	

(注) 小数点2位以下を四捨五入しているため割合(%)の合計は100.0%にならない

資料：古河市

2 地区別にみた公共施設の整備状況

地区別の公共施設の整備状況をみたものが下図表です。

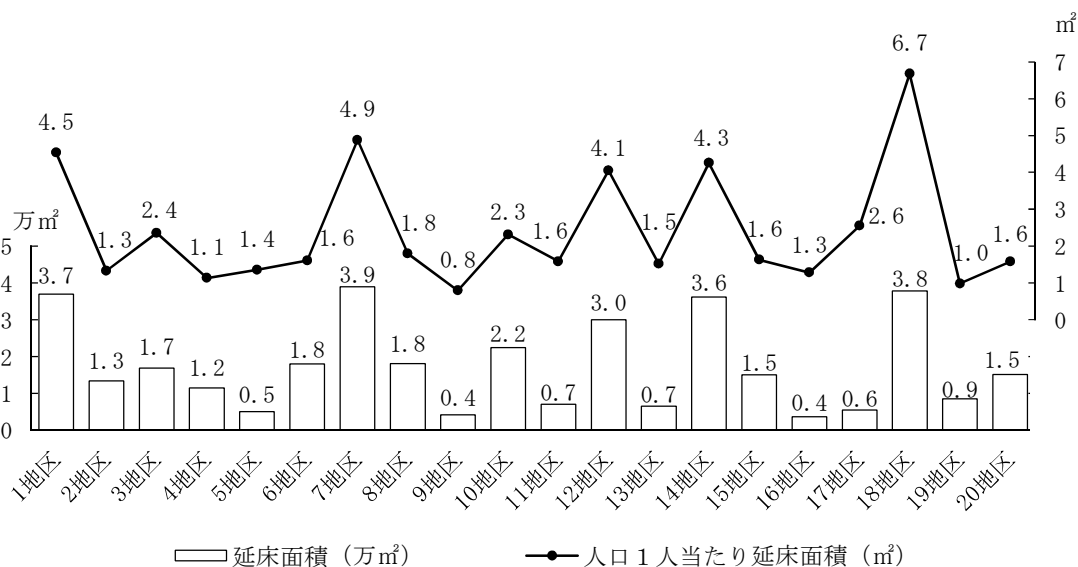
第1地区（古河地区）は17施設と最も多くの公共施設が立地しています。次いで第7地区（古河地区）16施設、第12地区（総和地区）14施設となっています。施設別にみると、小学校は全ての地区に整備されています。古河地区、三和地区は、行政自治会の区域と小学校区が整合しているため、1地区1校の配置となっています。これに対して、両者が整合していない総和地区は、小学校が2校立地する地区もみられます。中学校は9校あるため、1地区に小・中学校が両方ある地区も9地区となっています。市立保育所については、古河地区の5地区、総和地区の2地区で設置されていますが、三和地区では1地区も整備されていません。

次に公共施設の延床面積（量）をみると、第1地区、第7地区、第14地区、第18地区では3.5万㎡を超える大きい集積があります。人口1人当たりの延床面積をみると、第1地区（4.5㎡）、第7地区（4.9㎡）、第12地区（4.1㎡）、第14地区（4.3㎡）、第18地区（6.7㎡）では高くなっています。これらの地区では、庁舎や健康の駅といった行政系施設や大型施設が立地しているため、施設の量（延床面積）の集積が高くなっています。

図表4-7 地区別にみた公共施設の整備状況

区分	全 体	古河地区							総和地区							三和地区					
		第1地区	第2地区	第3地区	第4地区	第5地区	第6地区	第7地区	第8地区	第9地区	第10地区	第11地区	第12地区	第13地区	第14地区	第15地区	第16地区	第17地区	第18地区	第19地区	第20地区
合計	129	17	6	4	8	3	6	16	8	1	6	3	14	2	8	5	1	3	8	4	6
集会施設	21	3	1	0	4	1	2	1	1	0	1	1	1	1	2	0	0	0	1	1	0
図書館	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
博物館・美術館	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ施設	12	2	0	1	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0
レクリエーション・観光施設	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保養施設	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
産業系施設	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
学校	32	1	1	2	1	1	2	2	3	1	2	1	3	1	2	2	1	1	2	1	2
その他の教育施設	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
保育所	7	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幼児・児童施設	9	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	1	1	0	1	0	0	2
高齢者福祉施設	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
障がい者福祉施設	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
保健施設	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他社会福祉・保健施設	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
医療施設	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
庁舎	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
その他行政系施設	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
公営住宅	12	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1
公園	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	

図表4-8 地区別にみた公共施設の延床面積の状況



図表4-9 地区別にみた主な公共施設の状況

地区	市民文化系施設	社会教育系施設	スポーツ・レクリエーション施設	学校教育系施設 子育て支援系施設	保健・福祉施設 医療施設	行政系施設	公営住宅	その他	
古河地区	1	○古河庁舎 併設市民集会施設 (スペースU古河) ○地域交流センター (はなももプラザ) ○コミュニティセンター 出城	○古河歴史博物館 ○鷹見泉石記念館 ○奥原晴湖画室 ○篆刻美術館 ○古河街角美術館 ○古河文学館 ○永井路子旧宅	○お休み処坂長 ○古河スポーツ交流センター ○古河リバーサイド倶楽部・古河ゴルフリンクス	○古河第一小学校	○旧軽部医院	○古河庁舎	○城郭外市営住宅	
	2	○古河東公民館	○古河図書館	○酒井蔵	○古河第二小学校 ○第二保育所			○古河勤労青少年ホーム	
	3			○古河体育館	○古河第三小学校 ○古河第三中学校		○区画整理事務所		
	4	○中田公民館 ○隣保館 ○中田集会所 ○大山集会所			○古河第四小学校 ○第三保育所			○大山市営住宅(上耕地) ○大山市営住宅(第二)	
	5	○コミュニティセンター なかよこ			○古河第五小学校 ○第一保育所				
	6	○コミュニティセンター 平和 ○みどりヶ丘ふれあいの家			○古河第六小学校 ○古河第一中学校 ○第五保育所			○斎場	
	7	○三和いこいの家		○古河市サッカー場 ○古河市民球場 ○古河テニス場	○古河第七小学校 ○古河第二中学校 ○古河学校給食共同調理場 ○第四保育所 ○七小ひまわり児童クラブ	○古河福祉の森会館 ○古河老人福祉センター ○心身障害者福祉センター(おぞら) ○古河福祉の森診療所		○赤松市営住宅 ○ククヤ台市営住宅	○古河総合公園

地区	市民文化施設	社会教育施設	スポーツ・レクリエーション施設	学校教育系施設 子育て支援系施設	保健・福祉施設 医療施設	行政系施設	公営住宅	その他
総和地区	8	○つつみ公民館(つつみ館)	○丘里公園(野球場兼ソフトボール場) ○上大野グラウンド ○小堤スポーツ広場(サッカー場)	○小堤小学校 ○上大野小学校 ○総和北中学校 ○関戸保育所				
	9			○西牛谷小学校				
	10	○ユーセンター総和		○上辺見小学校 ○総和中学校 ○上辺見保育所			○上辺見市営住宅 ○鹿養市営住宅	
	11	○コミュニティセンター総和		○下辺見小学校			○上辺見第一市営住宅	
	12	○ふれあい公民館(ふれあい館)		○釈迦小学校 ○駒羽根小学校 ○総和南中学校 ○駒羽根児童クラブ ○ネーブル子育て広場 ○ファミリー・サポート・センター	○総和福祉センター(健康の駅) ○総和老人福祉センター(せせらぎの里) ○総和心身障害者福祉センター(たんぼぼ)		○磯部市営住宅 ○磯部第一市営住宅	○総和勤労青少年ホーム・働く女性の家(サークル館) ○ネーブルパーク
	13	○生涯学習センター総和(とねミドリ館)		○水海小学校				
14	○中央公民館 ○さくら公民館(さくら館)		○中央運動公園	○下大野小学校 ○中央小学校 ○総和学校給食センター ○中央小児童クラブ		○総和庁舎		
三和地区	15			○諸川小学校 ○三和北中学校	○諸川児童クラブ ○三和メディカルセンター ○三和ふるさとの森			
	16			○駒込小学校				
	17			○大和田小学校 ○大和田児童クラブ				○道の駅地域振興施設
	18	○三和公民館	○三和図書館・三和資料館	○三和健康ふれあいスポーツセンター	○仁連小学校 ○三和中学校 ○三和学校給食センター	○三和地域福祉センター	○三和庁舎	
	19	○三和農村環境改善センター		○三和野球場	○八俣小学校			○沼影市営住宅
	20				○名崎小学校 ○三和東中学校 ○名崎第1児童クラブ ○名崎第2児童クラブ	○尾崎国民健康保険診療所	○尾崎市営住宅	

3 20地区の概況と公共施設の整備状況

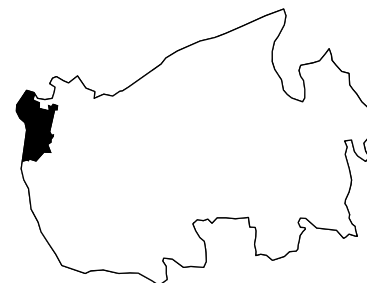
(1) 古河地区

ア 第1地区

① 地区の概況

第1地区は、人口8,149人、世帯数3,508、人口規模では市人口の5.6%を占めています。人口構造をみると、年少人口9.9%、生産年齢人口60.7%、老年人口29.4%となっており、20地区のなかで最も少子高齢化が進行しています。

市の西北端部に位置し、南北3km、東西2kmで南北に長い形をしています。西は渡良瀬川を挟み埼玉県加須市と接し、北は栃木県野木町に接しています。主な道路は国道354号が通過し、西の玄関口である三国橋及び新三国橋により埼玉県に通じています。河川は西側に渡良瀬川が流れています。



古河第一小学校区を区域としており、主に住宅地・商業地で形成されています。

② 公共施設の状況

第1地区には、17施設が立地し、20地区のなかでも最も公共施設が集積している地区の一つとなっています。地区の公共施設の総延床面積は3万6,962㎡、人口1人当たり4.5㎡となっています。

地域施設では、小学校（1施設）、集会施設（3施設）は立地していますが、中学校、保育所は立地していません。また、古河歴史博物館、鷹見泉石記念館等の博物館・美術館7施設が集積しており、歴史・文化ゾーン、観光ゾーンとしての地域性を形成しています。

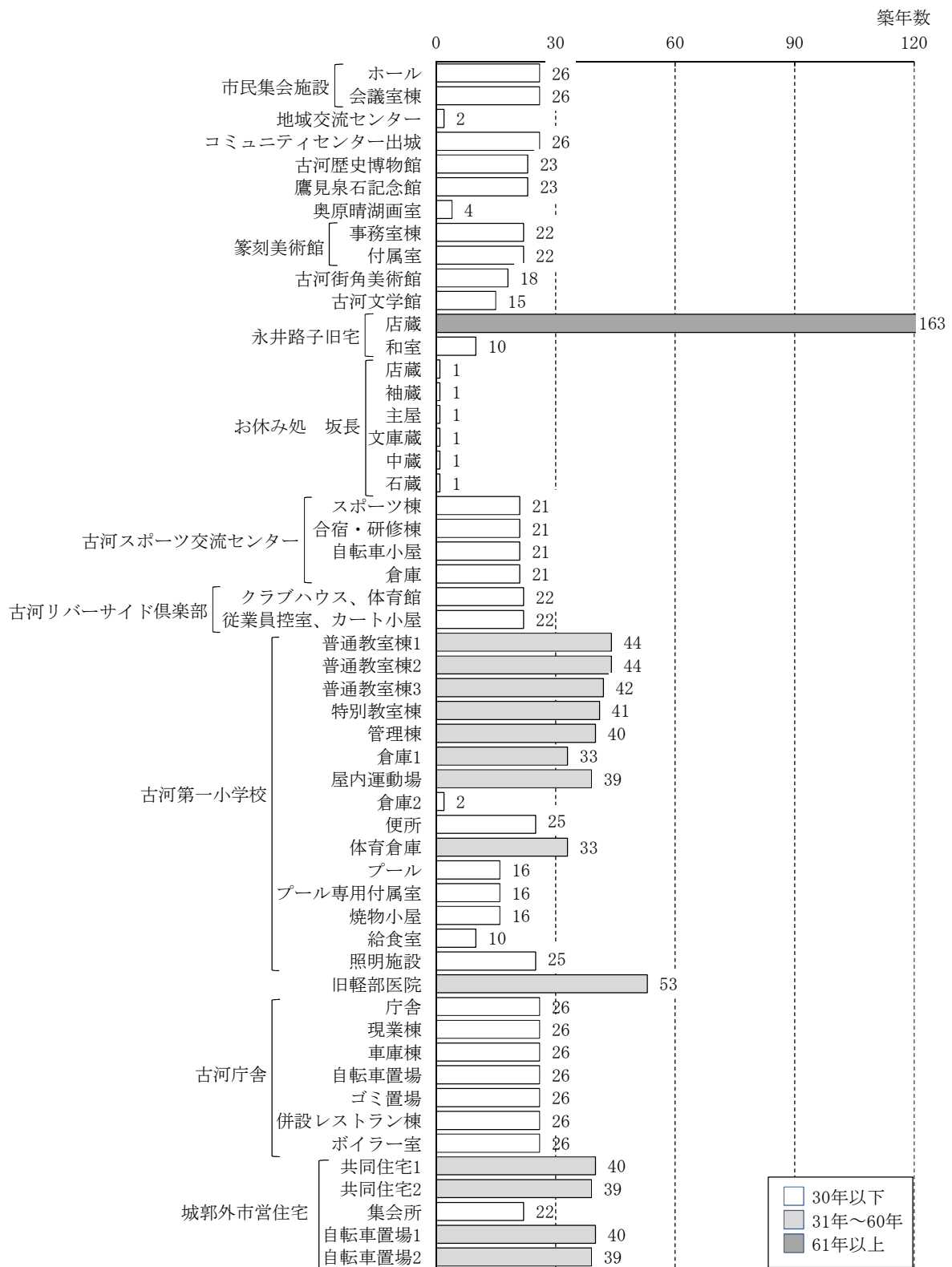
施設の築年数をみると、博物館・美術館、スポーツ施設は築30年以下の施設（棟）が多くなっていますが、古河第一小学校、城郭外市営住宅は築31年以上を経過した施設（棟）が多くなっています。また、古河庁舎は地区年数が26年を経過しており、大規模修繕が必要な時期が近づいています。

図表4-10 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	古河庁舎併設市民集会施設	1987	1,960.0
2	〃	地域交流センター	2012	1,796.0
3	〃	コミュニティセンター出城	1987	249.0
4	博物館・美術館	古河歴史博物館	1990	2,441.0
5	〃	鷹見泉石記念館	1990	164.4
6	〃	奥原晴湖画室	2009	101.4
7	〃	篆刻美術館	1991	136.9
8	〃	古河街角美術館	1995	498.0
9	〃	古河文学館	1998	678.5
10	〃	永井路子旧宅	2003	130.8
11	レクリエーション・観光施設	お休み処 坂長	2012	551.7
12	スポーツ施設	古河スポーツ交流センター	1992	5,105.0
13	〃	古河リバーサイド倶楽部・古河ゴルフリンクス	1991	4,060.0
14	学校	古河第一小学校	1904	6,650.0
15	障がい者福祉施設	旧軽部医院	2001	135.0
16	庁舎	古河庁舎	1987	10,639.6
17	公営住宅	城郭外市営住宅	1973	1,665.1

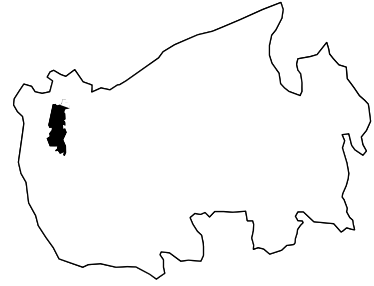
図表4-11 公共施設の築年数の状況



イ 第2地区

① 地区の概況

第2地区は、人口1万0,058人、世帯数4,414、人口規模では市人口の6.9%を占めています。人口構造をみると、年少人口11.5%、生産年齢人口62.5%、老年人口26.0%と、市内では少子高齢化が比較的進行した地域となっています。



市の西北部に位置し、南北2km、東西1kmで、南北に長い形をしています。地区内にJR古河駅が立地しており、古河市の玄関口として

交通の拠点性、利便性の極めて高い地区となっています。しかし、地区の中央部をJR宇都宮線の線路が縦断しており、地区が東西に2分されています。

古河第二小学校区を区域としており、古河市街地の中心地域としてJR古河駅周辺が再開発されてきており、近年は高層マンション、大規模マンション等が建設されています。

② 公共施設の状況

第2地区には、古河東公民館、古河図書館、酒井蔵、古河勤労青少年ホーム、古河第二小学校、第二保育所の6施設が立地しています。地区の公共施設の総延床面積1万3,410㎡、人口1人当たり1.3㎡となっています。このうち古河第二小学校が6,612㎡を占めています。また、古河図書館は年間多数の市民に利用されています。

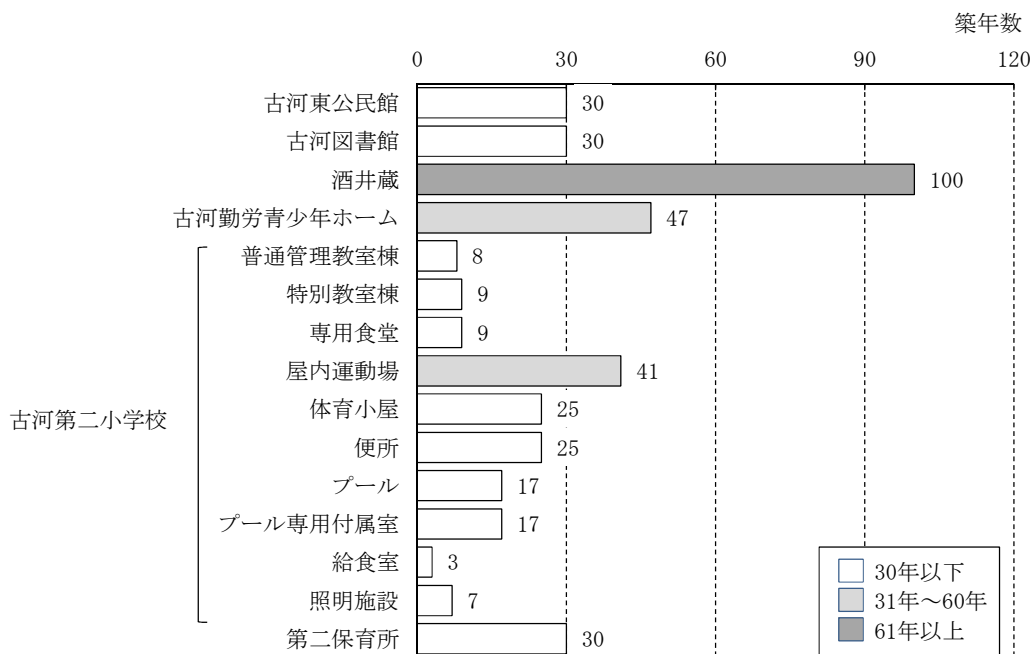
施設の築年数をみると、古河第二小学校の教室棟等は比較的新しい施設となっていますが、古河勤労青少年ホーム、古河第二小学校の屋内運動場が築40年以上経過し、老朽化が進んでいます。また、複合施設である古河東公民館、古河図書館、第二保育所は築30年を迎え、今後大規模修繕等が必要な時期を迎えています。

図表4-12 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	古河東公民館	1984	2,719.6
2	図書館	古河図書館	1984	2,719.6
3	レクリエーション・観光施設	酒井蔵	2020	220.0
4	産業系施設	古河勤労青少年ホーム	1966	699.0
5	学校	古河第二小学校	1910	6,612.0
6	保育所	第二保育所	1983	439.4

図表4-13 公共施設の築年数の状況



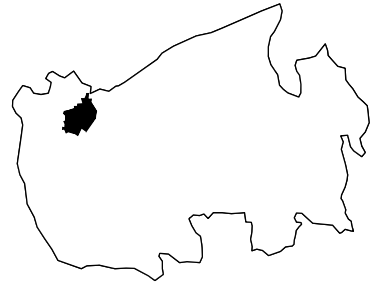
ウ 第3地区

① 地区の概況

第3地区は、人口7,172人、世帯数2,975、人口規模では市人口の4.9%を占めています。人口構造をみると、年少人口12.0%、生産年齢人口62.4%、老年人口25.6%となっており、比較的少子高齢化が進行した地域となっています。

市の西北部で古河駅東側に位置し、南北1.5km、東西1.5kmで、コンパクトにまとまった形状をしています。道路は、国道4号線が縦断し、JR古河駅からの街路と交差しています。

古河第三小学校区を区域としており、市街地及び商業地を形成しています。



② 公共施設の状況

第3地区には、古河体育館、古河第三小学校、古河第三中学校が立地しています。また、古河駅東部土地区画整理事業の実施に伴い、区画整理事務所が暫定的に設置されています。地区の公共施設の総延床面積は1万6,908㎡、人口1人当たり2.4㎡となっています。

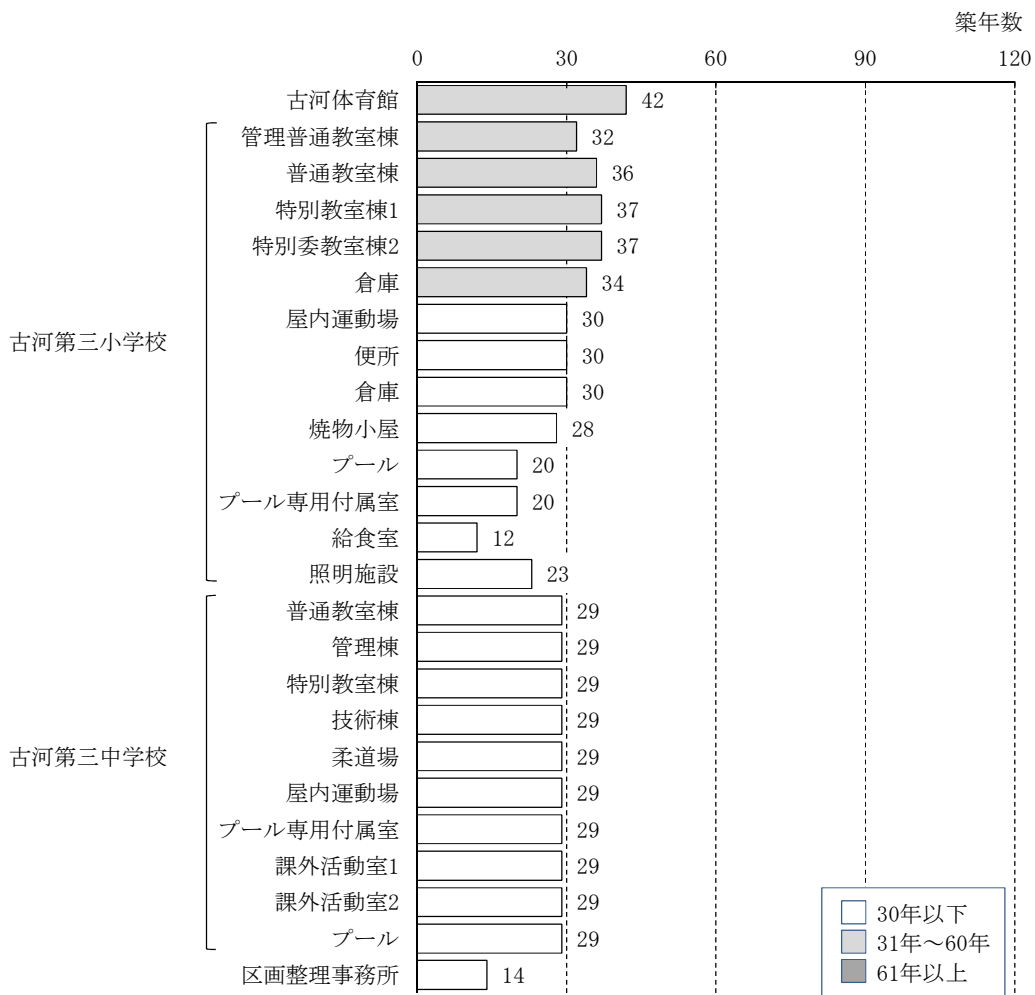
施設の築年数をみると、古河体育館は築42年が経過し老朽化が進行してきています。また、古河第三小学校も全ての教室棟が築31年以上経過しており、大規模修繕等の対応が必要な時期となっています。古河第三中学校の教室棟、運動場など全ての施設は築29年が経過しており、早期に大規模修繕等が必要な時期を迎えることとなります。

図表4-14 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	スポーツ施設	古河体育館	1971	4,135.0
2	学 校	古河第三小学校	1951	5,429.0
3	〃	古河第三中学校	1984	7,168.0
4	その他行政系施設	区画整理事務所	1999	176.2

図表4-15 公共施設の築年数の状況

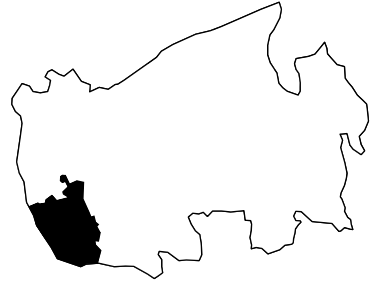


エ 第4地区

① 地区の概況

第4地区は、人口1万0,152人、世帯数3,999、人口規模では市人口の6.9%を占め、第6地区に次いで2番目に人口規模の大きい地区となっています。人口構造をみると、年少人口12.8%、生産年齢人口66.6%、老年人口20.6%となっており、少子化が進行しています。

市の最西南端部に位置し、南北4km、東西3kmで四角い形状をしています。南西部は渡良瀬川と利根川の合流地に隣接し、埼玉県加須市、同県久喜市と隣接しています。道路は、国道4号の利根川橋が南の玄関口の一つとして埼玉県に通じ、JR宇都宮線・東北新幹線が南北に走っています。



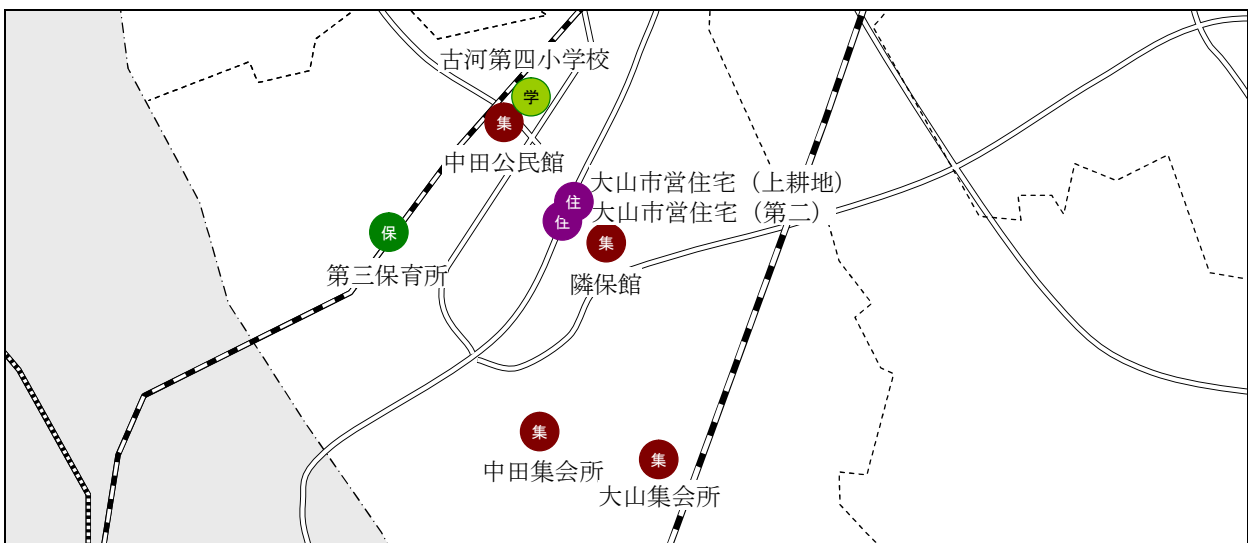
古河第四小学校区を区域としており、国道や主要道路を中心に住宅地もありますが、東側には土地改良区の田園地帯も広がり、農地・住宅地が混在する地域となっています。

② 公共施設の状況

第4地区は、古河第四小学校、第三保育所のほかに、4つの集会施設（中田公民館、隣保館、中田集会所、大山集会所）、2つの市営住宅（大山市営住宅（上耕地）、大山市営住宅（第二））が立地しています。地区の公共施設の総延床面積は1万1,534㎡、人口1人当たり1.1㎡となっており、公共施設の集積が比較的小さい地区となっています。

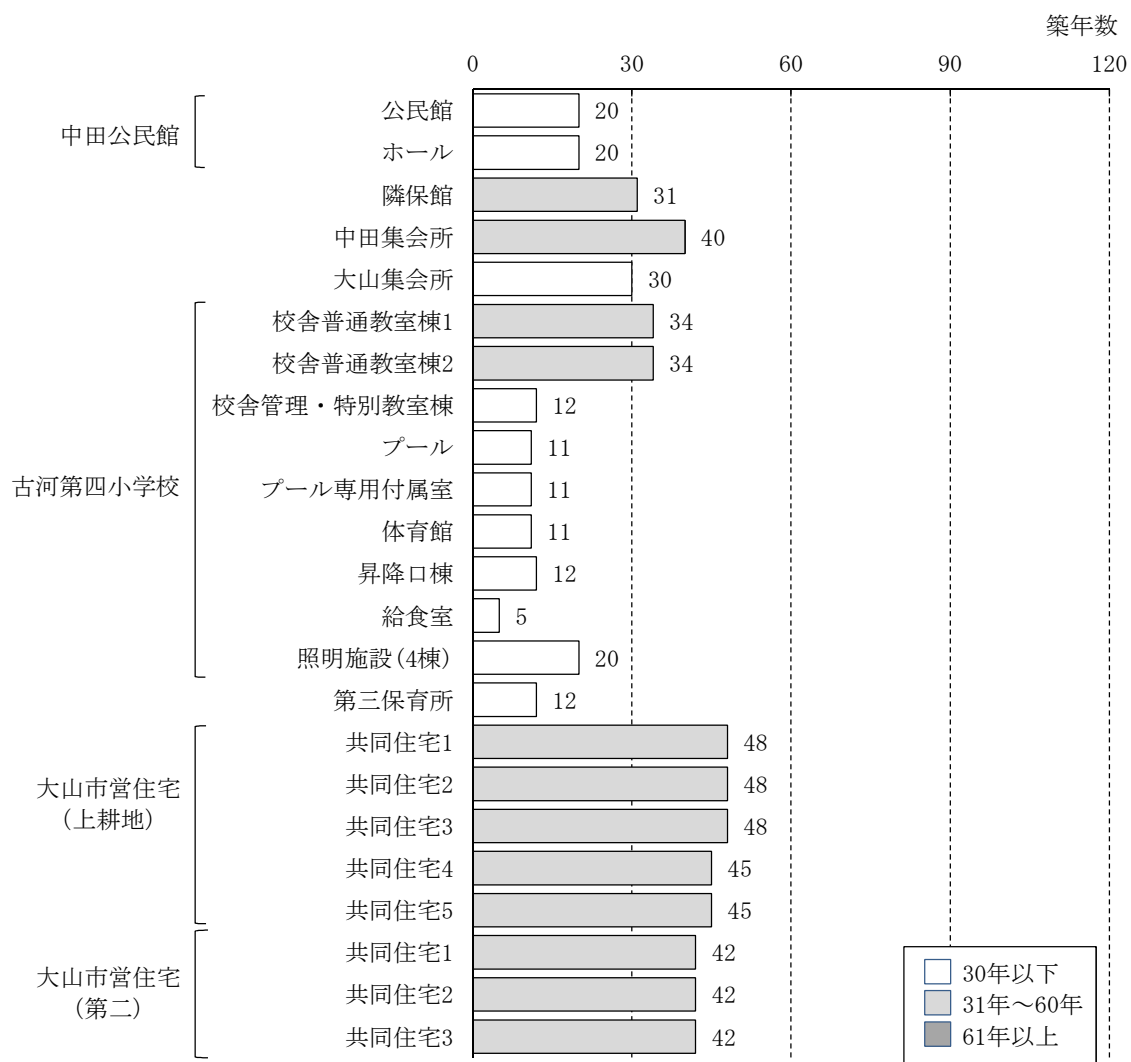
公共施設の築年数をみると、古河第四小学校は築34年が経過した教室棟が2つありますが、校舎管理・特別教室棟、プール、体育館など築年数が10年程度の比較的新しい施設も含まれます。2つの市営住宅は築40年以上が経過し、施設の老朽化が進行しています。

図表4-16 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集 会 施 設	中田公民館	1958	1,448.8
2		隣保館	1982	595.6
3		中田集会所	1973	166.1
4		大山集会所	1983	158.1
5	学 校	古河第四小学校	1958	6,831.0
6	保 育 所	第三保育所	2001	808.3
7	公 営 住 宅	大山市営住宅（上耕地）	1965	875.0
8	”	大山市営住宅（第二）	1971	650.7

図表4-17 公共施設の築年数の状況

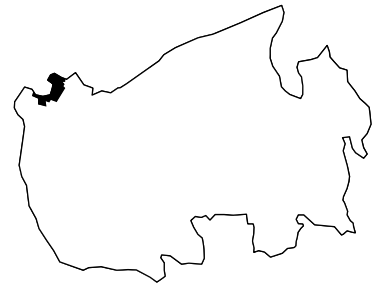


オ 第5地区

① 地区の概況

第5地区は、人口3,731人、世帯数1,607、古河地区のなかでも最も人口規模の小さい地区で、市人口の2.5%を占めています。人口構造をみると、年少人口10.6%、生産年齢人口60.0%、老年人口29.4%となっており、市内20地区のなかで最も高齢化が進行しています。

市の西北端部に位置し、南北1.5km、東西1.5kmで逆L字の形をしており、西部及び北部は栃木県野木町に接しています。道路は、旧日光街道が南北に通過し、地区の北側野木町で国道4号に合流しています。



古河第五小学校区を区域とし、雀神社東側で主に住宅を中心とした市街地を形成しています。

② 公共施設の状況

第5地区は、コミュニティセンターなかよこ、古河第五小学校、第一保育所の3施設が立地しています。地区の施設の総延床面積は5,068㎡、人口1人当たり1.4㎡となっています。

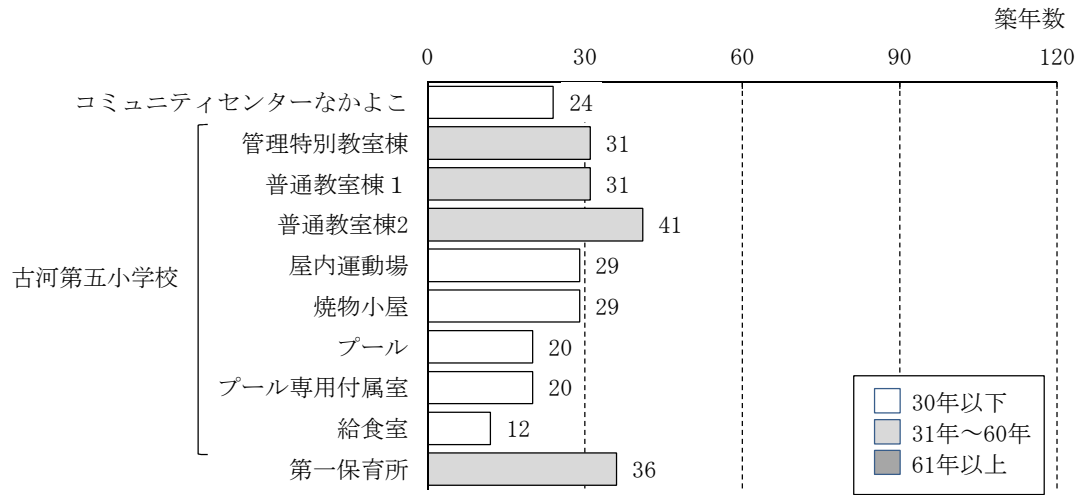
施設の築年数をみると、古河第五小学校の教室棟は全て築31年以上が経過した建物となっています。また、第一保育所も築36年が経過し老朽化が進行しています。

図表4-18 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集 会 施 設	コミュニティセンターなかよこ	1989	204.0
2	学 校	古河第五小学校	1959	4,166.0
3	保 育 所	第一保育所	1977	698.0

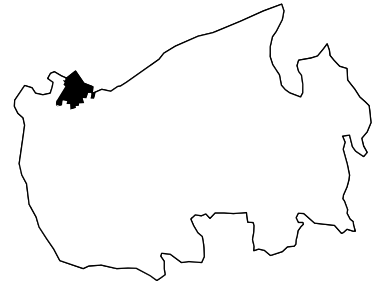
図表4-19 公共施設の築年数の状況



カ 第6地区

① 地区の概況

第6地区は、人口1万1,162人、世帯数4,642、人口規模では市人口の7.6%を占め、市内20地区のなかで最も人口規模の大きい地区となっています。人口構造をみると、年少人口12.1%、生産年齢人口64.3%、老年人口23.6%となっており、比較的少子高齢化が進行した地域となっています。



市の西北部に位置し、南北2km、東西2kmで、四角い形状をしています。東部及び北部は栃木県野木町に接しています。地区内の中央部を南北に国道4号が走り、地域を分断しています。

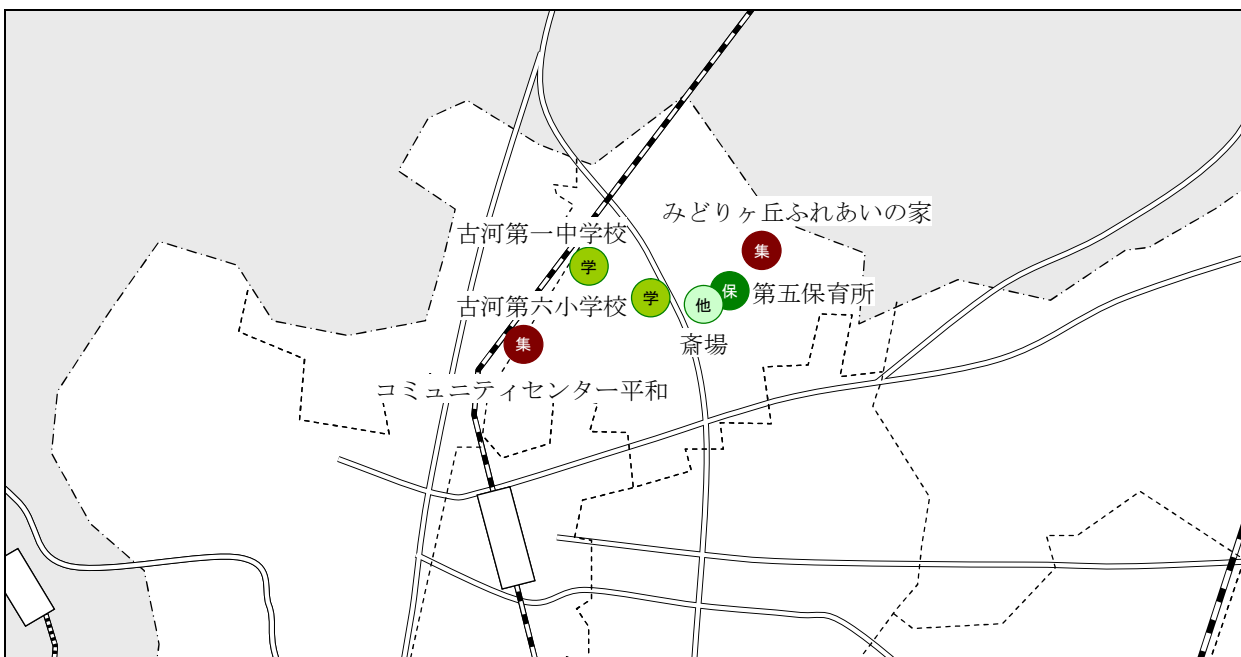
古河第六小学校区を区域とし、住宅地としての市街地を形成しています。

② 公共施設の状況

第6地区は、古河第六小学校、古河第一中学校、第五保育所のほかに、2つの集会施設（コミュニティセンター平和、みどりヶ丘ふれあいの家）、斎場が立地しています。地区の公共施設の総延床面積は5,068㎡、人口1人当たり1.4㎡となっています。

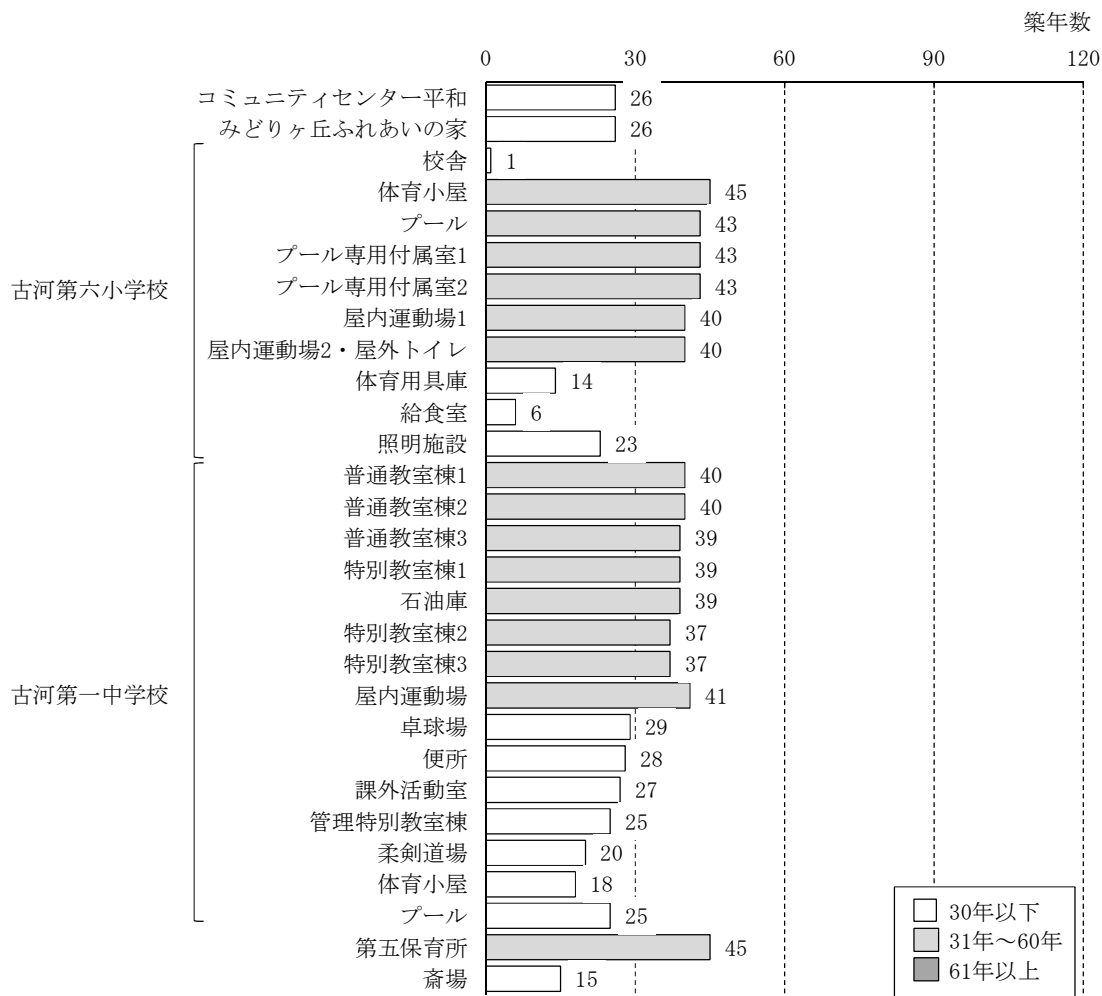
施設の築年数をみると、古河第六小学校ではプール、屋内運動場といった施設が築40年以上経過し、老朽化が進んできています。また、古河第一中学校では全ての教室棟が築40年前後のものが多くなっています。

図表4-20 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集 会 施 設	コミュニティセンター平和	1987	267.0
2	〃	みどりヶ丘ふれあいの家	1987	269.0
3	学 校	古河第六小学校	1968	7,046.0
4	〃	古河第一中学校	1947	9,146.0
5	保 育 所	第五保育所	1968	258.2
6	そ の 他	斎場	1973	999.0

図表4-21 公共施設の築年数の状況

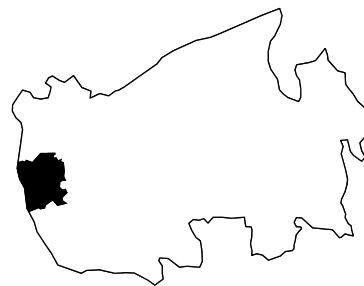


キ 第7地区

① 地区の概況

第7地区は、人口7,990人、世帯数3,044、人口規模では市人口の5.5%を占めています。人口構造をみると、年少人口16.2%、生産年齢人口66.7%、老年人口17.1%で、少子高齢化が進行しておらず、比較的人口構造が若い地域となっています。

市の最も西側の中央部に位置し、南北3km、東西2kmで、四角い形状をしています。西側は渡良瀬川が流れ、河川を挟んで埼玉県加須市と接しています。道路は、地区内の中央部を南北に街路が通過しています。



古河第七小学校区を区域とし、西側は農村部と東側は住宅地となっています。また、坂間工業団地を有し、大規模な住宅開発も行われた地域となっています。

② 公共施設の状況

第7地区は、古河第七小学校、古河第二中学校、古河学校給食共同調理場、第四保育所、七小ひまわり児童クラブ、集会施設（三和いこいの家）、市営住宅（赤松市営住宅、ククヤ台市営住宅）といった地域施設のほかに、スポーツ施設（古河市サッカー場、古河市民球場、古河テニス場）、保健・福祉・医療施設（古河福祉の森会館、古河老人福祉センター、心身障害者福祉センター（おおぞら）、古河福祉の森診療所）、古河総合公園が立地しており、市内でも最も公共施設が集積している地区となっています。地区の公共施設の総延床面積は3万8830.6㎡、人口1人当たり4.9㎡となっています。

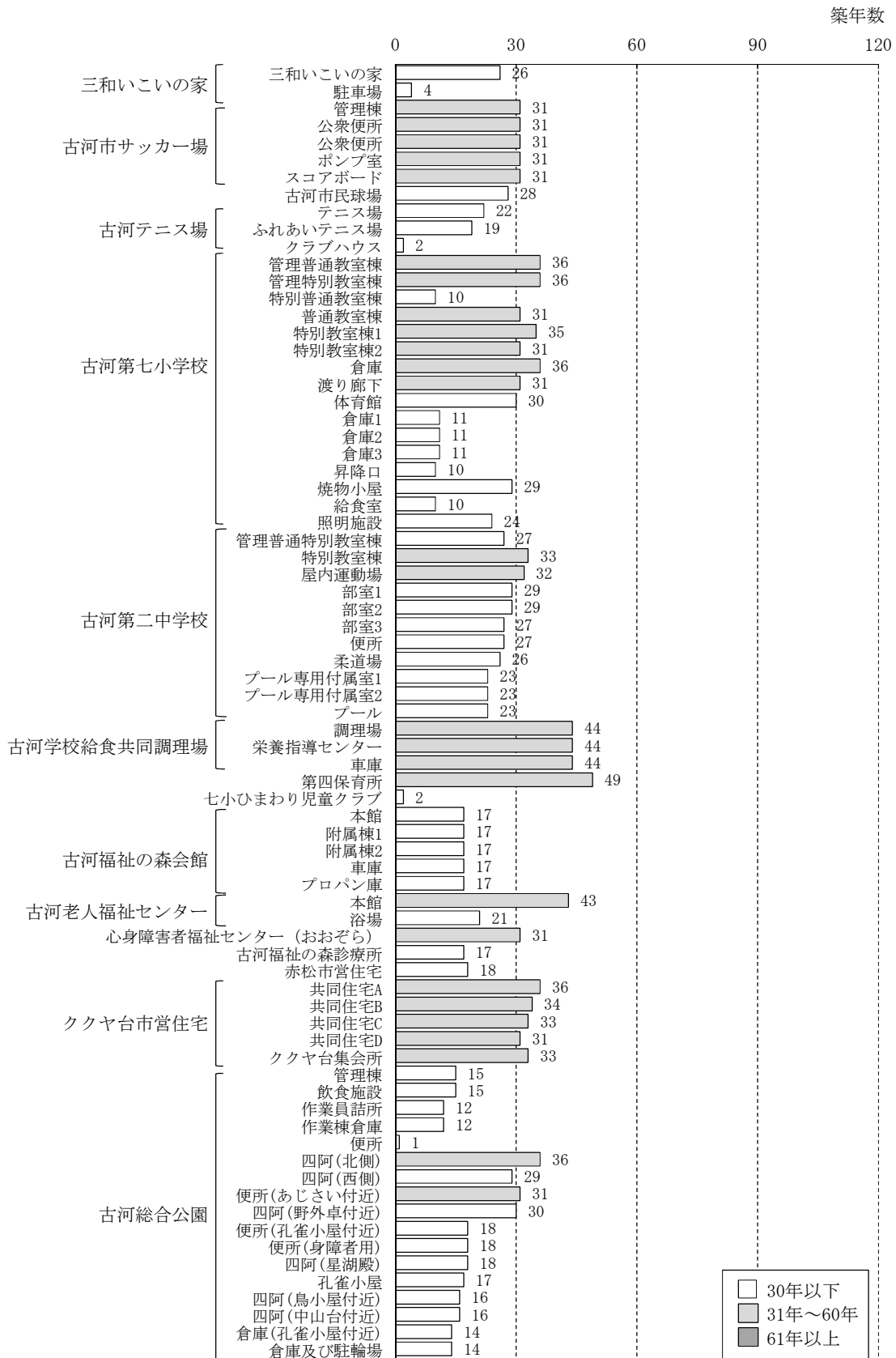
施設の築年数をみると、古河第七小学校の教室棟の多くが築31年以上となっています。また、ククヤ台市営住宅も全ての棟が築31年以上となっています。また、第四保育所、古河学校給食共同調理場も築40年以上が経過した老朽化した施設となっています。

図表4-22 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	三和いこいの家	1987	294.0
2	スポーツ施設	古河市サッカー場	1982	322.0
3	〃	古河市民球場	1985	823.0
4	〃	古河テニス場	1991	3,777.9
5	学校	古河第七小学校	1975	6,005.0
6	〃	古河第二中学校	1958	9,662.0
7	その他の教育施設	古河学校給食共同調理場	1969	1,213.0
8	保育所	第四保育所	1965	297.1
9	幼児・児童施設	七小ひまわり児童クラブ	2012	183.4
10	児童福祉施設	古河福祉の森会館	1996	8,970.0
11	高齢者福祉施設	古河老人福祉センター	1970	683.4
12	障がい者福祉施設	心身障害者福祉センター（おおぞら）	1982	777.0
13	医療施設	古河福祉の森診療所	1996	1,114.0
14	公営住宅	赤松市営住宅	1995	1,963.6
15	〃	ククヤ台市営住宅	1977	1,498.7
16	公園	古河総合公園	1975	1,246.5

図表4-23 公共施設の築年数の状況

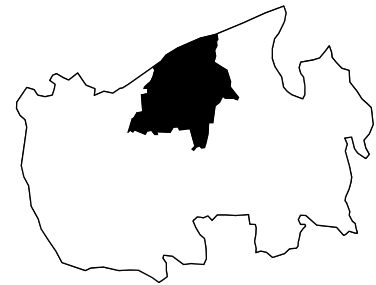


(2) 総和地区

ア 第8地区

① 地区の概況

第8地区は、人口1万66人、世帯数3,958、人口規模では市人口の6.9%を占め、三番目に大きな地区となっています。人口構造をみると、年少人口12.8%、生産年齢人口66.8%、老年人口20.4%となっており、比較的少子化が進行した地域となっています。



市の中央北部に位置し、南北5km、東西5kmでひし形に近い形状をしています。北は栃木県野木町に接しています。道路は、地区内中央付近を東西に国道125号が通過し、新4号国道が東端を南北に通過しています。河川は、地区内中央部を南北に宮戸川が流れています。

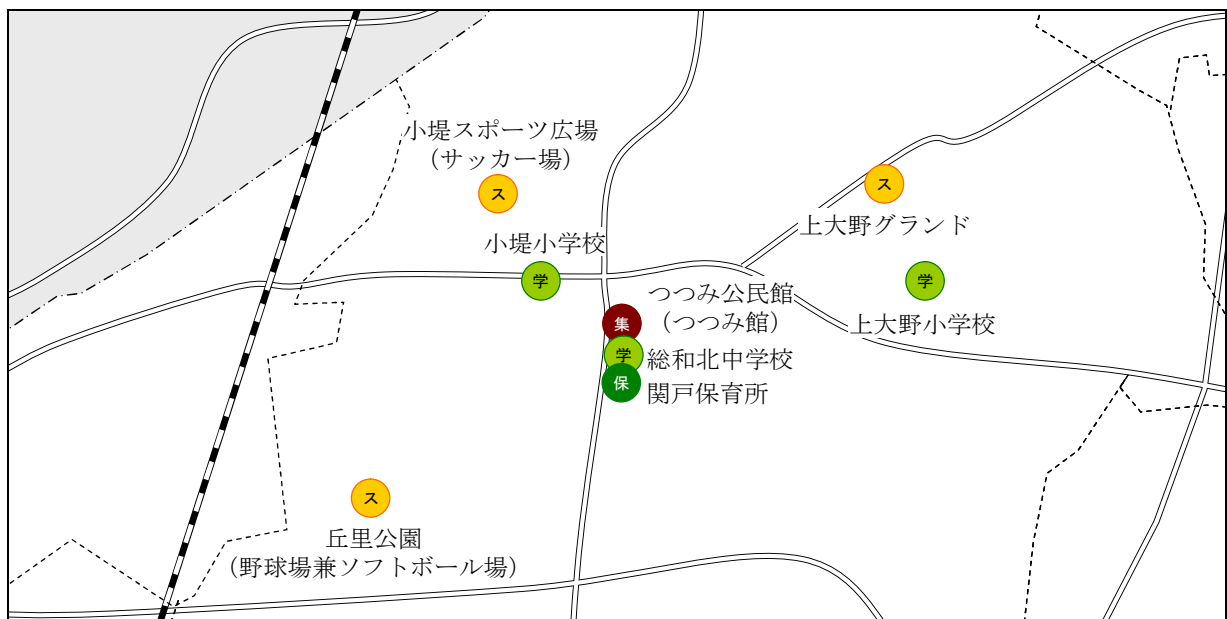
上大野小学校、小堤小学校、中央小学校の3つの小学校区にまたがる地区で、農村地域が広がり、山林も多い地域となっています。丘里工業団地の周辺及び北側には住宅地が多くみられます。

② 公共施設の状況

第8地区は、2つの小学校（小堤小学校、上大野小学校）、総和北中学校、関戸保育所のほかに、つつみ公民館（つつみ館）、スポーツ施設（丘里公園（野球場兼ソフトボール場）、上大野グランド、小堤スポーツ広場（サッカー場））が立地しています。地区の施設の総延床面積は1万8,085㎡、人口1人当たり1.8㎡となっています。

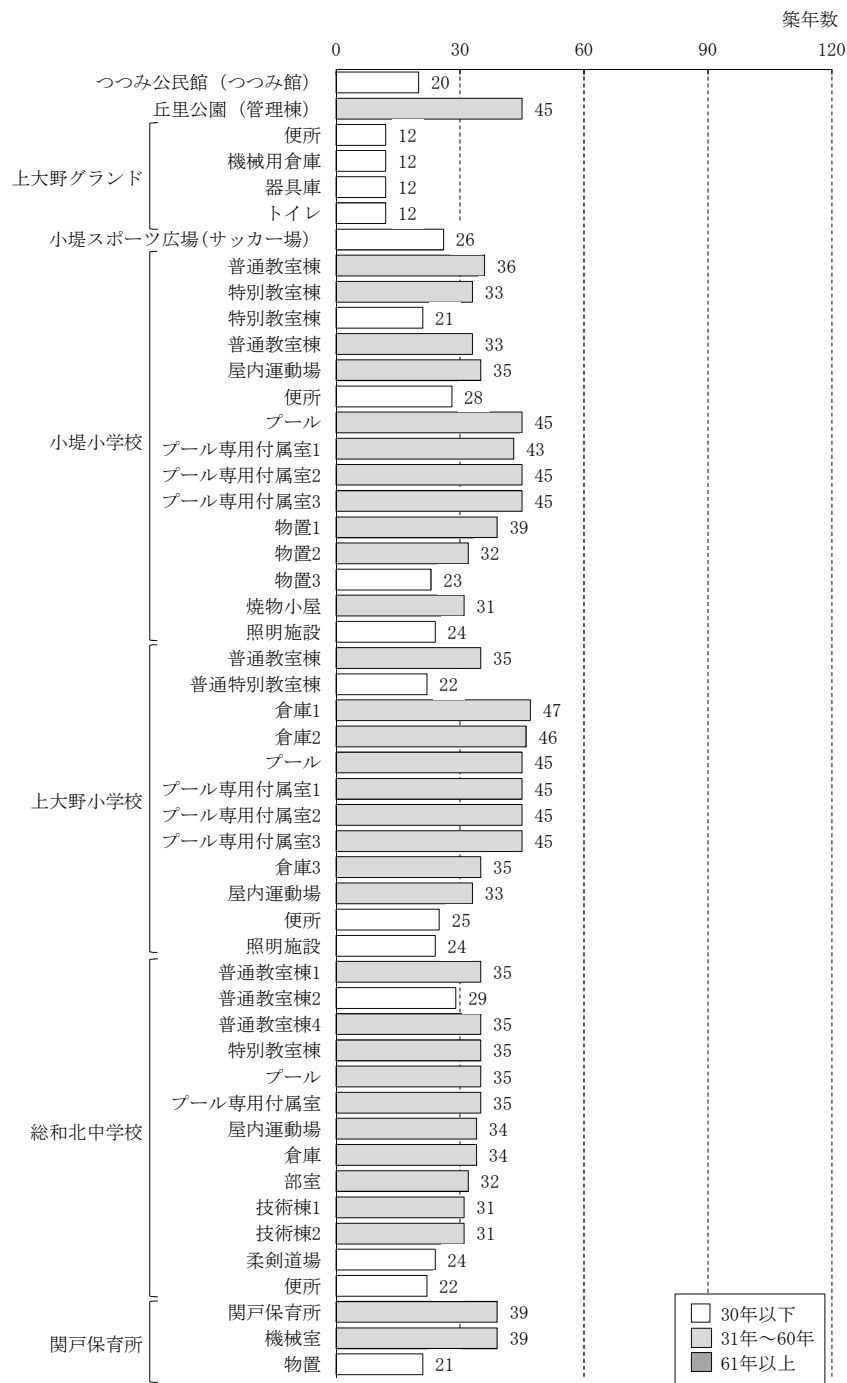
施設の築年数をみると、小堤小学校、上大野小学校の教室棟の多くが築40年以上経過しています。

図表4-24 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	つつみ公民館(つつみ館)	1994	1,290.7
2	スポーツ施設	丘里公園(野球場兼ソフトボール場)	1968	432.1
3	〃	上大野グラウンド	2001	226.9
4	〃	小堤スポーツ広場(サッカー場)	1987	0.0
5	学校	小堤小学校	1889	5,685.0
6	〃	上大野小学校	1880	3,857.0
7	〃	総和北中学校	1978	6,136.0
8	保育所	関戸保育所	1974	457.0

図表4-25 公共施設の築年数の状況

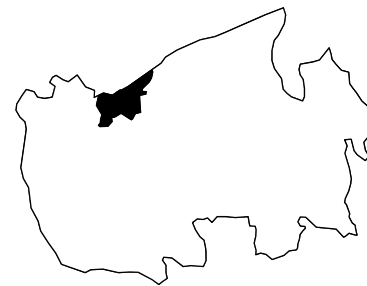


イ 第9地区

① 地区の概況

第9地区は、人口5,310人、世帯数2,121、人口規模では市人口の3.6%を占めています。人口構造をみると、年少人口13.5%、生産年齢人口66.9%、老年人口19.5%で、少子高齢化が進行しておらず、平均的な人口構造地域です。

市の西側北部に位置し、南北3km、東西3kmで片翼を広げた形状をしています。北側は栃木県野木町に接しています。道路は、北部を東西に国道125号が、西部を南北に街路が通過しています。河川は、西端を向堀川が南北に流れています。東部を新幹線が通過しています。



西牛谷小学校、小堤小学校、上辺見小学校の3つの小学校区にまたがり、近年は宅地の増加により農地が減少しています。西側は古河駅東部土地区画整理地となっています。

② 公共施設の状況

第9地区に立地する公共施設は、西牛谷小学校のみです。同校は教室棟、プール、屋内運動場などの11棟で構成され、総延床面積は4,231㎡、人口1人当たり0.8㎡となっています。市内20地区のなかで最も公共施設の集積が小さい地区となっています。

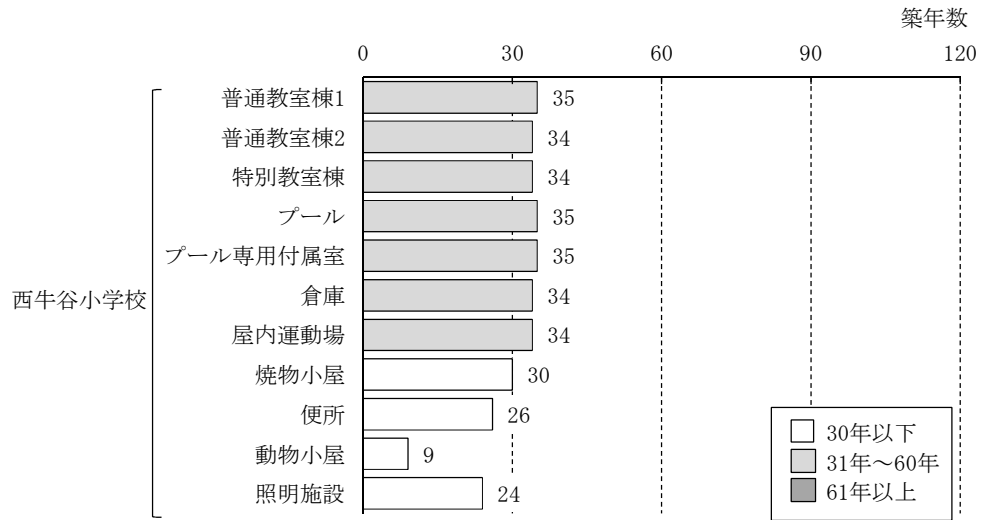
西牛谷小学校の築年数をみると、築31年を経過した教育棟等が多くなっています。

図表4-26 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	学 校	西牛谷小学校	1978	4,231.0

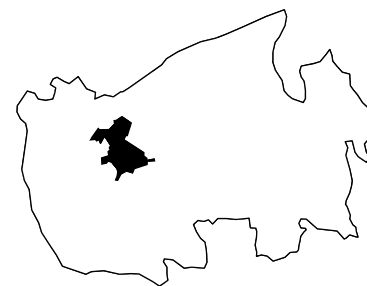
図表4-27 公共施設の築年数の状況



ウ 第10地区

① 地区の概況

第10地区は、人口9,693人、世帯数3,824、人口規模では市人口の6.6%を占めています。人口構造をみると、年少人口17.0%、生産年齢人口67.3%、老年人口15.7%となっており、20地区のなかでは年少人口の割合が最も高い地区となっています。



市の西部中央に位置し、南北3km、東西2kmで、鼓を立てたような形状をしています。道路は、地区の端部に県道や街路が通過し、それらの道路により囲まれている形となっています。中央を南北に新幹線が通過しています。

上辺見小学校、下辺見小学校、西牛谷小学校、中央小学校の4つの小学校区の境界に位置しています。過去に区画整理が行われ、地域全体は住宅地が多くなっています。

② 公共施設の状況

第10地区は、ユースセンター総和（集会施設）、上辺見小学校、総和中学校、上辺見保育所、上辺見市営住宅、鹿養市営住宅の6つの公共施設が立地しています。地区の施設の総延床面積は2万2,428㎡、人口1人当たり2.3㎡となっています。

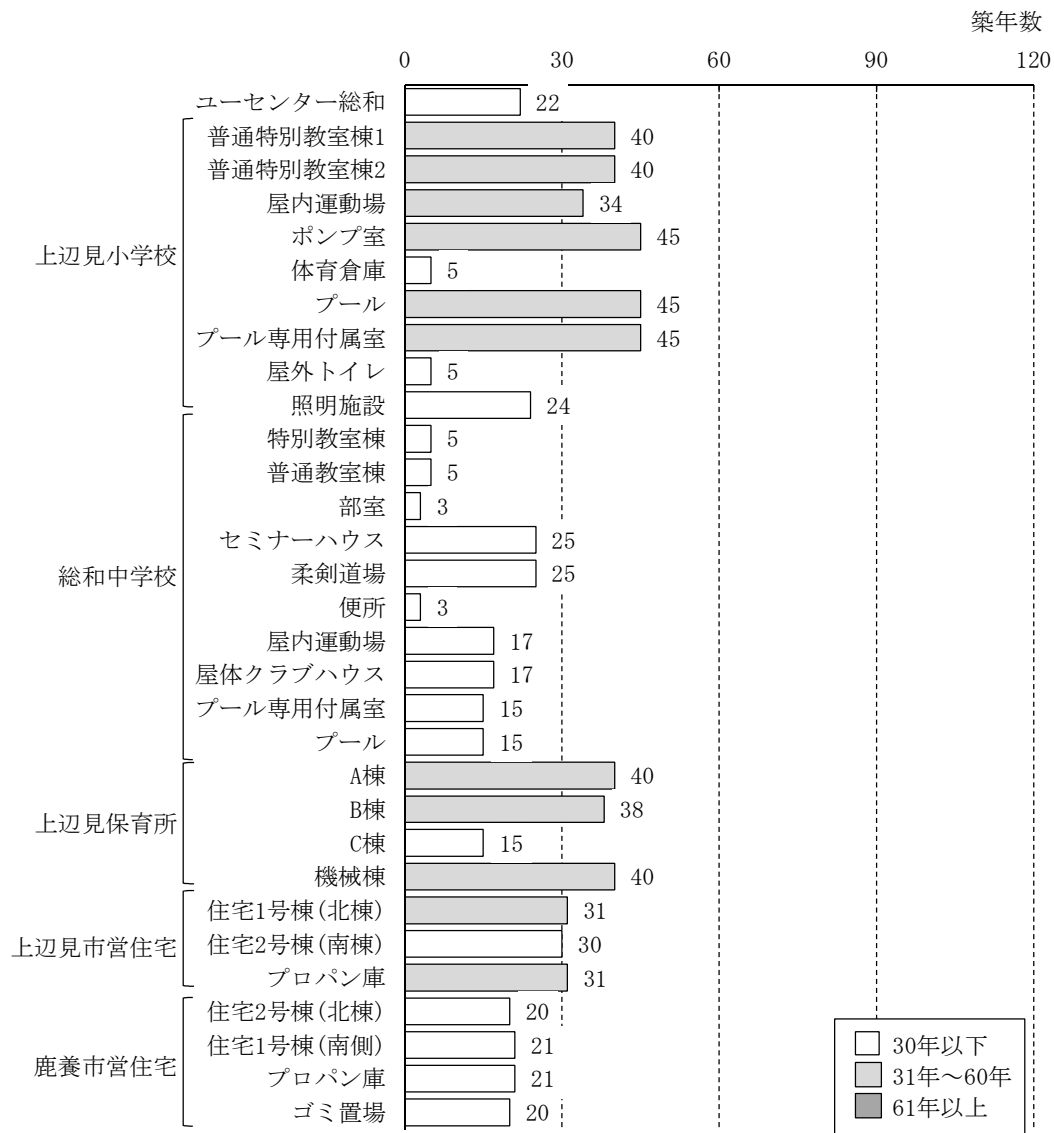
施設の築年数をみると、上辺見小学校の教室棟、プール、屋内運動場といった主要施設は築40年以上が経過した老朽化した施設となっています。また、上辺見保育所も築40年前後の老朽化した施設が含まれます。これに対して、総和中学校は全ての施設が築25年以下の比較的新しい施設で占められています。

図表4-28 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	ユースセンター総和	1991	1,994.2
2	学 校	上辺見小学校	1874	4,406.0
3	〃	総和中学校	1959	10,545.0
4	保育所	上辺見保育所	1973	765.7
5	公 営 住 宅	上辺見市営住宅	1982	2,255.4
6	〃	鹿養市営住宅	1993	2,462.0

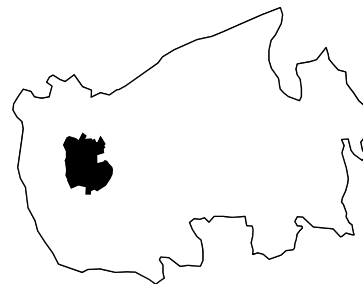
図表 4-29 公共施設の築年数の状況



エ 第11地区

① 地区の概況

第11地区は、人口4,456人、世帯数1,766、人口規模では市人口の3.0%を占めています。人口構造をみると、年少人口12.6%、生産年齢人口66.9%、老年人口20.5%となっており、比較的少子化が進行した地域となっています。



市の西側中央部に位置し、南北3km、東西2kmで四角い形状をしています。道路は、西に国道4号が、東には街路が南北に通過し、中央部を国道354号が東西斜めに通過しています。河川は中央部を向堀川が南北に流れています。西側にはJR宇都宮線が通過しています。中央部に土地改良された農地が南北に広がり、西部には陸上自衛隊の駐屯地が大きな面積を占めています。

下辺見小学校、上辺見小学校の2つの小学校区にまたがります。地域全体は農村部の性格を有していますが、一部国道4号西側地域及び北部地域、小学校周辺では区画整理事業の進行や宅地開発等が行われています。

② 公共施設の状況

第11地区は、コミュニティセンター総和（集会施設）、下辺見小学校、上辺見第一市営住宅の3つの施設が立地しています。施設の総延床面積は7,064㎡、人口1人当たり1.6㎡となっています。

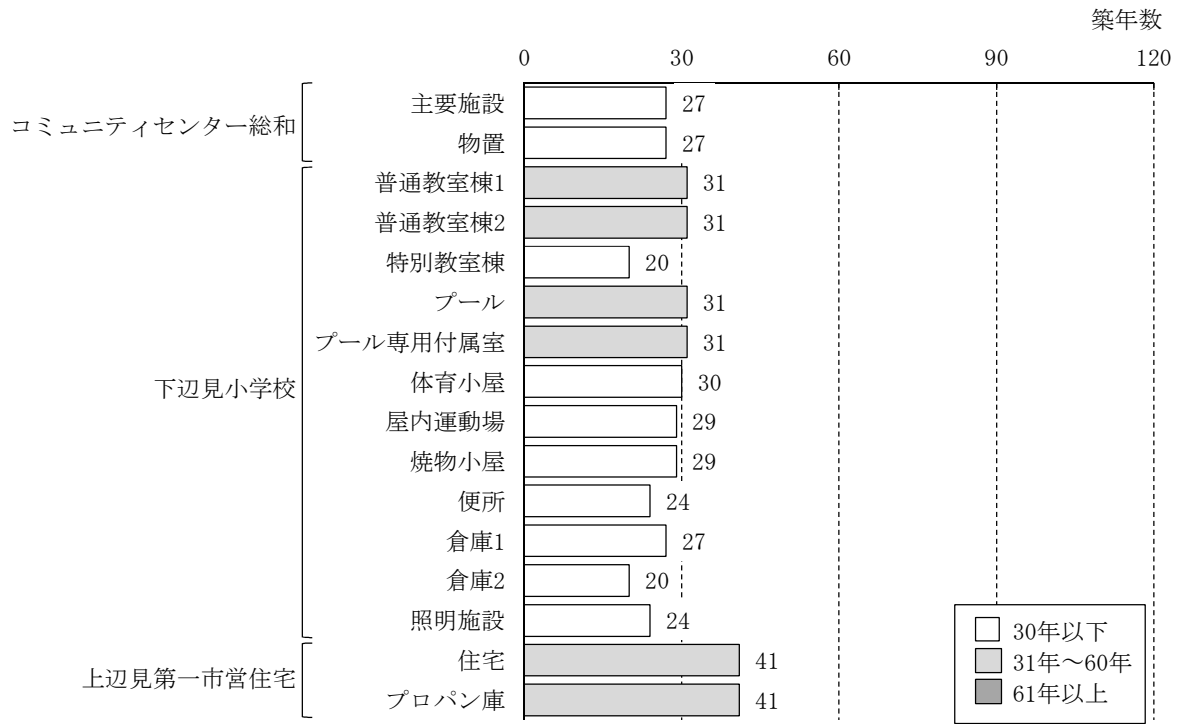
施設の築年数をみると、下辺見小学校の教室棟、プールは築31年を迎え、大規模修繕が必要な時期を迎えています。また、上辺見第一市営住宅は築41年が経過し、老朽化が進行しています。

図表4-30 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	コミュニティセンター総和	1986	366.2
2	学校	下辺見小学校	1982	4,896.0
3	公営住宅	上辺見第一市営住宅	1972	1,801.6

図表4-31 公共施設の築年数の状況

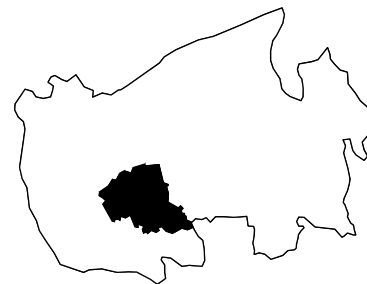


オ 第12地区

① 地区の概況

第12地区は、人口7,408人、世帯数2,804、人口規模では市人口の5.1%を占めています。人口構造をみると、年少人口15.5%、生産年齢人口65.0%、老年人口19.5%で、少子高齢化が進行しておらず、比較的人口構造が若い地域となっています。

市の中央よりもやや南西部に位置し、南北4km、東西3kmで、南西部に開く扇形をしています。道路は中央を南北に街路が通過し、東西に国道354号、県道つくば古河線が通過しています。河川は、西側に女沼川が流れています。



釈迦小学校、駒羽根小学校の2つの小学校区にまたがり、地区全体は農村地域の性格を有していますが、地区内に北利根工業団地、駒羽根住宅団地を有しています。

② 公共施設の状況

第12地区は、3つの学校（釈迦小学校、駒羽根小学校、総和南中学校）が立地しています。また、ふれあい公民館（ふれあい館）、総和勤労青少年ホーム・働く女性の家（サークル館）、駒羽根児童クラブ、ネーブル子育て広場、市営住宅（磯部市営住宅、磯部第一市営住宅）といった公共施設が立地しています。総和地区の保健・福祉ゾーンとしての性格も有しており、ファミリー・サポート・センター、総和福祉センター（健康の駅）、総和老人福祉センター（せせらぎの里）、総和心身障害者福祉センター（たんぼぼ）が立地しています。さらに市外からの利用者も多いネーブルパークが立地し、市内外の地域間交流の拠点となっています。地区の施設の総延床面積は3万0,003㎡、人口1人当たり4.1㎡となっています。

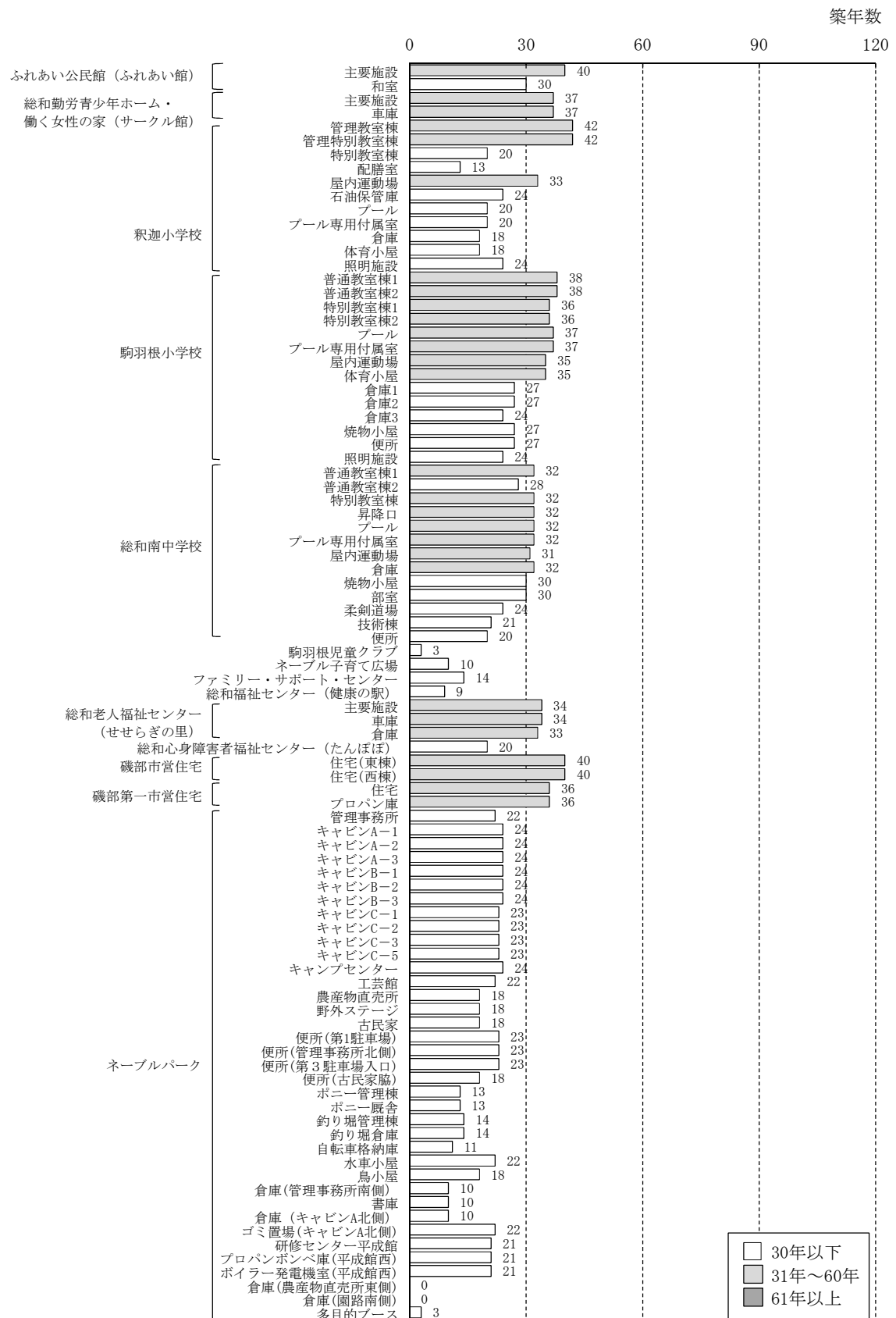
施設の築年数をみると、3つの学校施設の主要施設（教室棟、運動施設等）の老朽化が進んでいます。また、2つの市営住宅も築年数が古く、磯部市営住宅が築40年、磯部第一市営住宅は築36年となっています。これに対してネーブルパークは、37棟の施設を有していますが、全ての施設が築24年以下で、比較的新しい施設で占められています。

図表 4-32 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	ふれあい公民館 (ふれあい館)	1973	484.0
2	産業系施設	総和勤労青少年ホーム・働く女性の家 (サークル館)	1976	1,288.2
3	学校	積迦小学校	1873	4,585.0
4	〃	駒羽根小学校	1975	4,588.0
5	〃	総和南中学校	1981	7,079.0
6	幼児・児童施設	駒羽根児童クラブ	2010	167.7
7	〃	ネーブル子育て広場	2003	219.0
8	〃	ファミリー・サポート・センター	1999	170.4
9	保健施設	総和福祉センター (健康の駅)	2004	4,200.2
10	高齢者福祉施設	総和老人福祉センター (せせらぎの里)	1979	1,089.3
11	障がい者福祉施設	総和心身障害者福祉センター (たんぼぼ)	1993	265.6
12	公営住宅	磯部市営住宅	1972	496.0
13	〃	磯部第一市営住宅	1977	1,033.0
14	公園	ネーブルパーク	1989	4,337.4

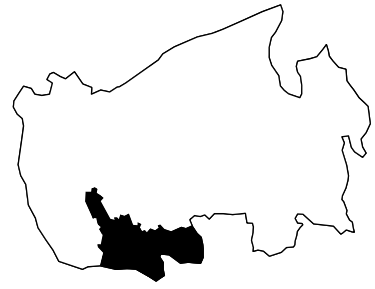
図表4-3-3 公共施設の築年数の状況



カ 第13地区

① 地区の概況

第13地区は、人口4,311人、世帯数1,458、人口規模では市人口の2.9%を占めています。人口構造をみると、年少人口13.6%、生産年齢人口67.3%、老年人口19.1%となっており、平均的な人口構造になっています。



市の南西部に位置し、南北4km、東西5kmで横に長い形状をしています。東は境町、南は利根川を挟んで五霞町に接しています。道路は、東端を新4号国道及び県道境間々田線があり、やや中央部を国道354号が通過しています。河川は利根川に向かって向堀川、女沼川及び都市下水路が南北に流入しています。西端を東北新幹線が通過しています。

積迦小学校、水海小学校の2つの小学校区にまたがり、地区の西部から南部にかけて大山・積水の両土地改良区の農地が広がり、地域全体は農村地域の性格を有しています。

② 公共施設の状況

第13地区は、生涯学習センター総和（とねミドリ館）、水海小学校の2つの公共施設が立地しています。施設の総延床面積は6,550㎡、人口1人当たり1.5㎡となっています。

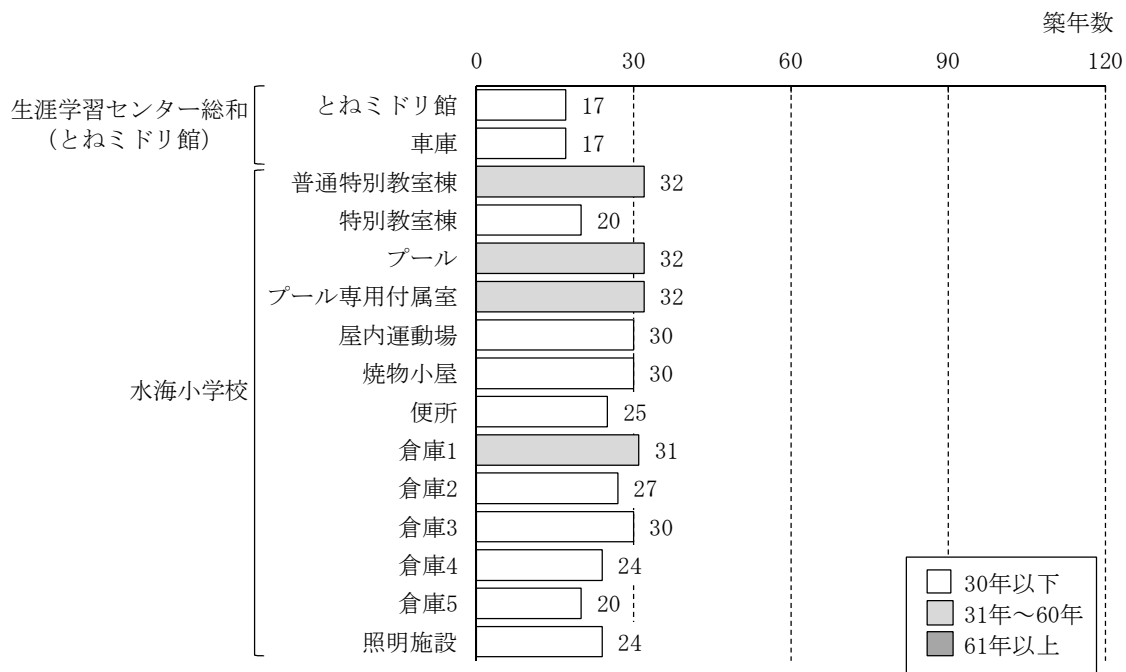
施設の築年数をみると、生涯学習センター総和（とねミドリ館）は築17年の比較的新しい施設となっています。これに対して、水海小学校は、普通特別教室棟、プール棟が、築32年を経過しています。

図表4-34 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	生涯学習センター総和（とねミドリ館）	1996	2,073.0
2	学校	水海小学校	1981	4,477.0

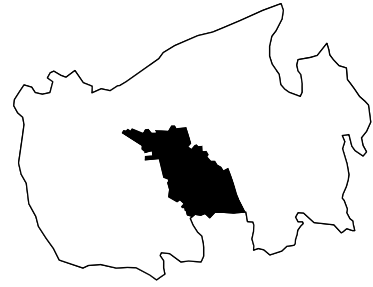
図表4-35 公共施設の築年数の状況



キ 第14地区

① 地区の概況

第14地区は、人口8,502人、世帯数2,963、人口規模では市人口の5.8%を占めています。人口構造をみると、年少人口16.9%、生産年齢人口64.4%、老年人口18.7%となっており、少子高齢化が進行しておらず、比較的人口構造が若い地域となっています。



市のほぼ中央部に位置し、南北4km、東西6kmで、左に傾く平行四辺形になっています。南側は境町に接しています。道路は、やや中央部を南北に新4号国道が、東西に県道つくば古河線が通過しています。河川は中央部を宮戸川が、東には準用河川が流れています。

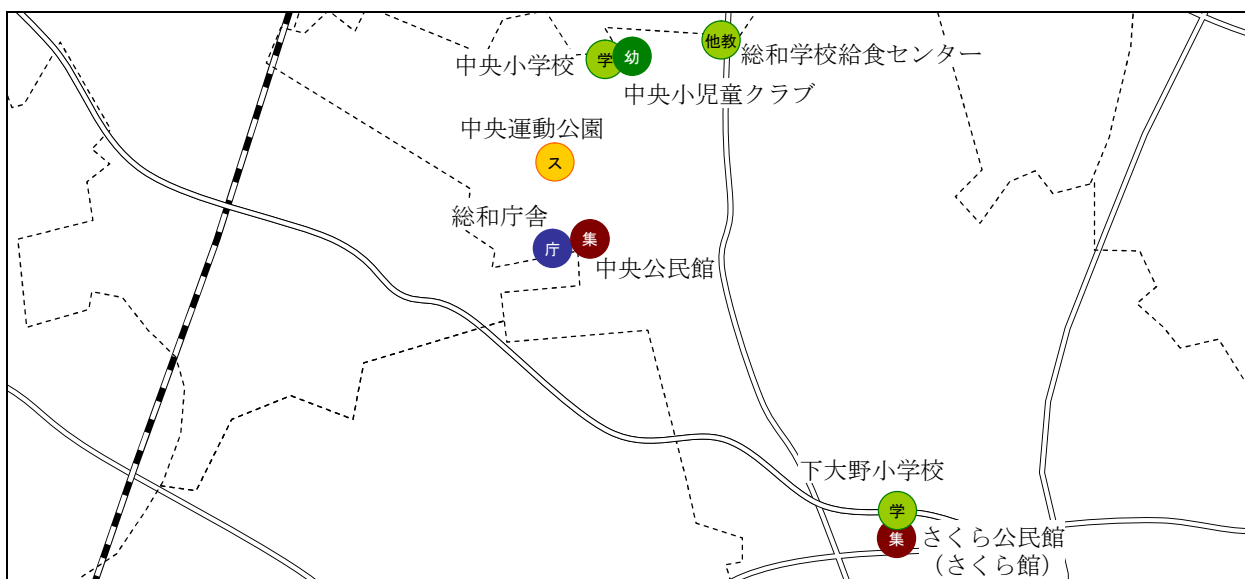
下大野小学校、中央小学校の2つの小学校区にまたがり、地区の中央部を南北に長井戸沼土地改良区の農地が広がっています。地域全体は農村地域となっていますが、西北部で宅地開発が増えています。中央西側には古くからの配電盤工業団地が立地し、市役所本庁舎もあり、市の行政の中心地となっています。

② 公共施設の状況

第14地区は、2つの集会施設（中央公民館、さくら公民館（さくら館））、中央運動公園、下大野小学校、中央小学校、総和学校給食センター、中央小児童クラブ、総和庁舎の8つの施設が立地しています。総和庁舎が立地しているため、施設の総延床面積は3万6,209㎡にのぼり、人口1人当たり4.3㎡と公共施設のボリュームが大きい地区となっています。

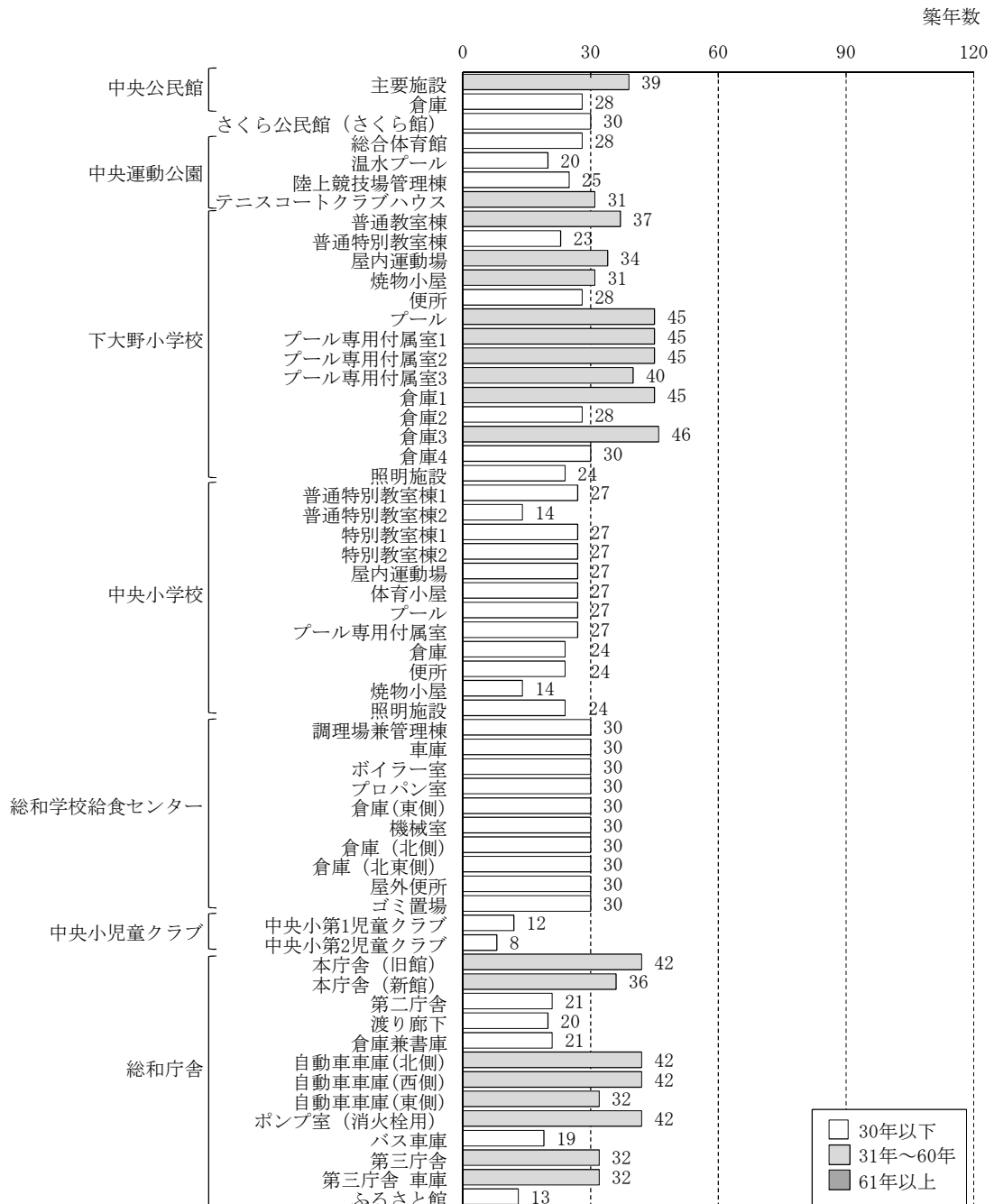
施設の築年数をみると、下大野小学校は、教室棟、プール、屋内運動場といった主要施設の老朽化が進行しています。また、総和庁舎は旧館、新館ともに築年数が古く、老朽化が進行している状況にあります。

図表4-36 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集 会 施 設	中央公民館	1975	2,471.0
2		さくら公民館（さくら館）	1983	450.0
3	ス ポ ー ツ 施 設	中央運動公園	1982	12,347.3
4	学 校	下大野小学校	1889	4,928.0
5		中央小学校	1986	5,632.0
6	その他の教育施設	総和学校給食センター	1983	1,701.6
7	幼 児 ・ 児 童 施 設	中央小児童クラブ	2001	238.6
8	庁 舎	総和庁舎	1971	8,440.1

図表4-37 公共施設の築年数の状況

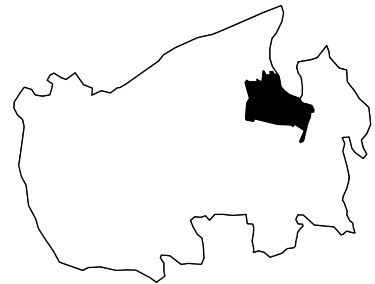


(3) 三和地区

ア 第15地区

① 地区の概況

第15地区は、人口9,251人、世帯数3,538、人口規模では市人口の6.3%を占めています。人口構造をみると、年少人口15.3%、生産年齢人口65.3%、老年人口19.4%で、少子高齢化が進行しておらず、比較的人口構造が若い地域となっています。



市の北東部に位置し、南北に2km、東西に3kmの台形に近い形状をしています。北部の一部が結城市に接しています。道路は、中央部を東西に国道125号が、南北に県道結城野田線が通過し交差しています。河川は西に大川、東に西仁連川が南北に流れています。主要公共交通機関としては、三和庁舎から古河駅に直通バス路線が新設されています。

諸川小学校区を区域としており、国道125号と県道結城野田線の交差点を中心に市街地を形成していますが、周辺部は農村部が広がっています。

② 公共施設の状況

第15地区は、諸川小学校、三和北中学校、諸川児童クラブ、三和メディカルセンター、三和ふるさとの森の5施設が立地しています。施設の総延床面積は1万5,098㎡、人口1人当たり1.6㎡となっています。

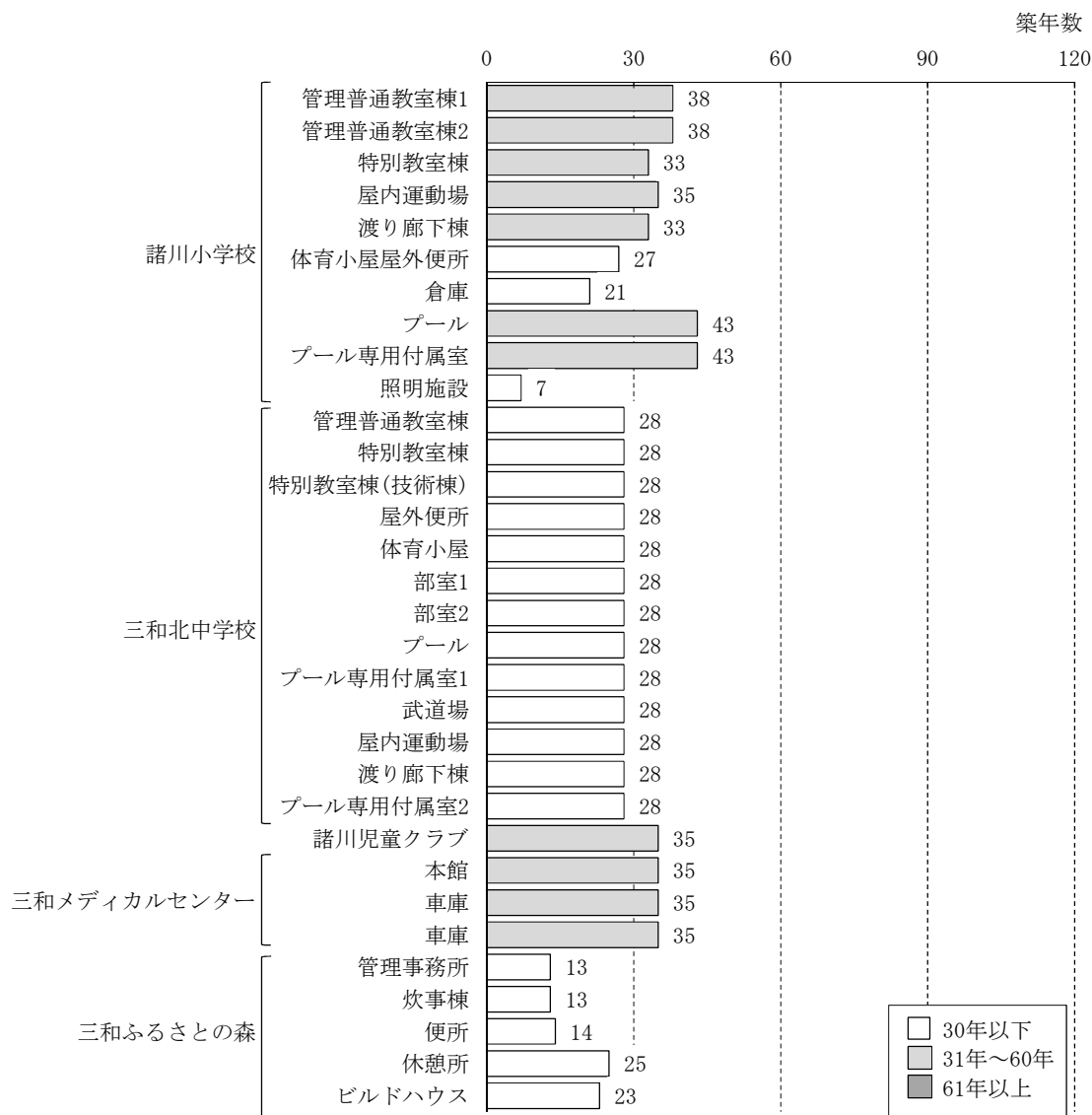
施設の築年数をみると、諸川小学校では教室棟、運動施設などが全般的に老朽化しており、特にプール施設は築43年となっています。また、三和メディカルセンターも築35年が経過し、老朽化が進行しています。

図表4-38 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	学 校	諸川小学校	1874	5,917.0
2	〃	三和北中学校	1985	8,153.0
3	幼 児 ・ 児 童 施 設	諸川児童クラブ	1990	79.0
4	その他の社会福祉・保健施設	三和メディカルセンター	1978	729.0
5	公 園	三和ふるさとの森	1988	220.0

図表4-39 公共施設の築年数の状況

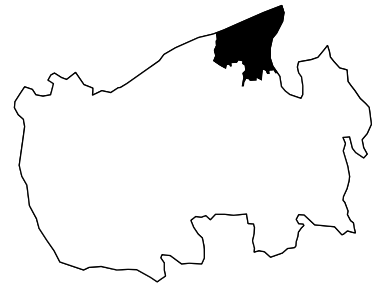


イ 第16地区

① 地区の概況

第16地区は、人口2,849人、世帯数985、人口規模では市人口の1.9%を占めています。人口構造をみると、年少人口11.7%、生産年齢人口67.6%、老年人口20.7%となっており、比較的少子化が進行した地域になっています。

市の北東部に位置し、南北3km、東西3kmで南西部に向けた扇形をしています。東は結城市、北部は小山市に接しています。道路は、西部を新4号国道が南北に、南部を県道新宿新田総和線が東西に通過しています。河川は中央を大川が、東端を西仁連川が南北に流れています。



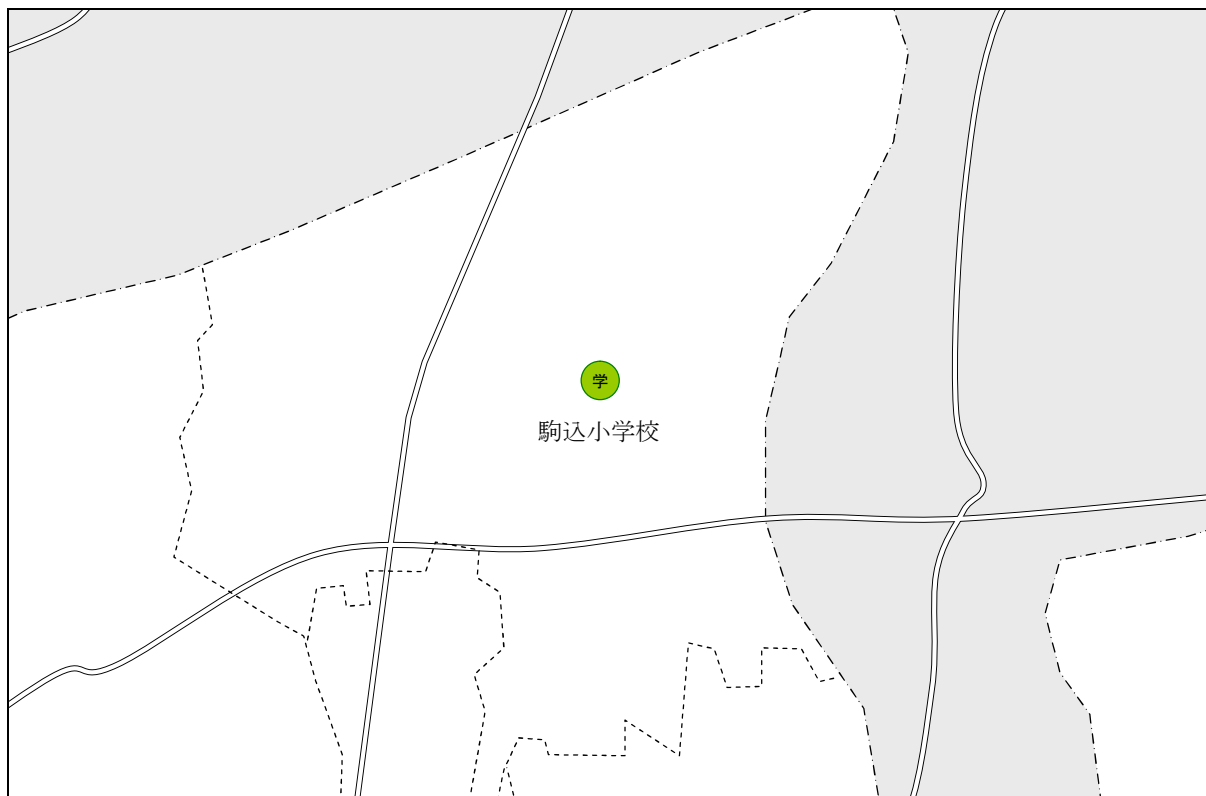
駒込小学校区を区域としており、全体には農村地域であるが、山林も多い地域となっています。

② 公共施設の状況

第16地区は、駒込小学校が立地しています。駒込小学校は8棟で構成されており、総延床面積は3,657㎡、人口1人当たり1.3㎡となっています。

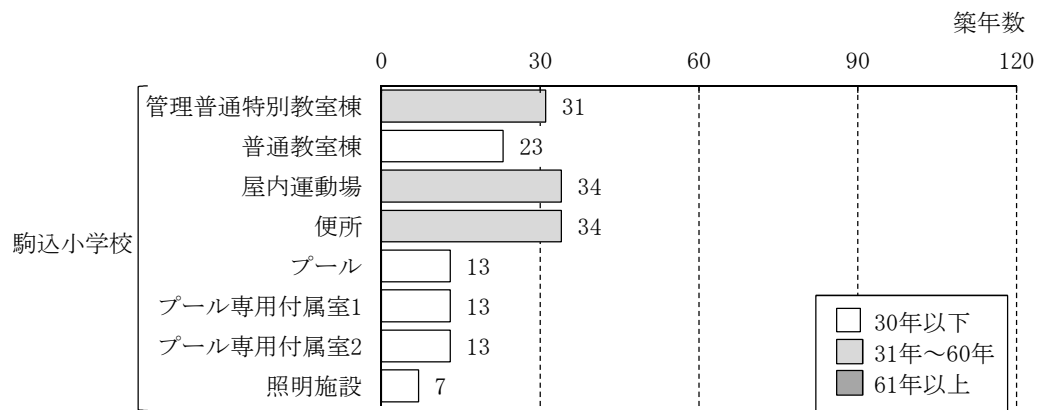
駒込小学校の築年数をみると、普通教室棟、プールは比較的新しい施設となっていますが、管理普通特別教室棟、屋内運動場は築31年以上の施設となっています。

図表4-40 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	学 校	駒込小学校	1893	3,657.0

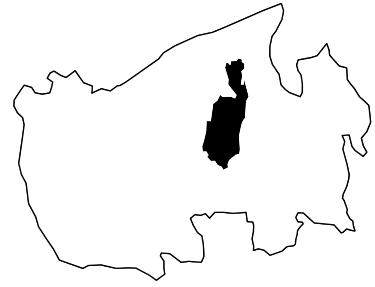
図表4-4-1 公共施設の築年数の状況



ウ 第17地区

① 地区の概況

第17地区は、人口2,160人、世帯数753、人口規模では市人口の1.5%で、市内20地区のなかで最も人口規模が小さい地区となっています。人口構造をみると、年少人口10.1%、生産年齢人口68.3%、老年人口21.6%となっており、比較的少子高齢化が進行した地域となっています。



市の中央部に位置し、南北5km、東西2kmで南北に細長い地域となっています。道路は西部を新4号国道が南北に、東西にはやや北部を国道125号が、南に古河駅からの街路が通過しています。現在、地区南部に筑西幹線道路が建設中となっています。河川は東境に大川が流れています。

大和田小学校区を区域としており、全体に農村地域の性格を有していますが、地区の西側及び東側に農地が広がっています。

② 公共施設の状況

第17地区は、大和田小学校、大和田児童クラブが立地しています。また、現在、整備中となっていますが、道の駅地域振興施設「まくらがの里こが」が平成25年度に竣工する予定となっています。道の駅地域振興施設も含めた総延床面積は5,518㎡、人口1人当たり2.6㎡となっています。

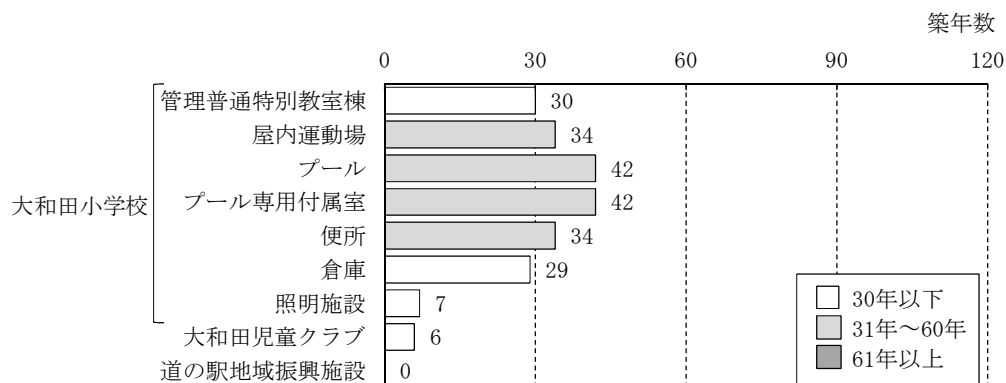
施設の築年数をみると、大和田小学校は6つの棟で構成されていますが、管理普通特別教室棟や屋内運動場などの主要施設を含む5棟が築年数30年以上となっています。

図表4-42 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	学 校	大和田小学校	1891	3,148.0
2	幼 児 ・ 児 童 施 設	大和田児童クラブ	2007	82.4
3	そ の 他	道の駅地域振興施設	2013	2,288.0

図表4-43 公共施設の築年数の状況

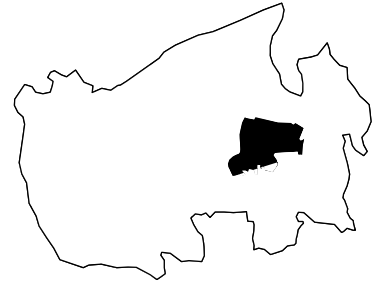


エ 第18地区

① 地区の概況

第18地区は、人口5,669人、世帯数2,034、人口規模では市人口の3.9%を占めています。人口構造をみると、年少人口12.1%、生産年齢人口66.6%、老年人口21.3%となっており、比較的少子高齢化が進行した地域になっています。

市の西部中央に位置し、南北3km、東西4kmで、横長の四角い形状をしています。道路は、中央を南北に県道結城野田線が、東西には南部を県道つくば古河線や街路が通過し、筑西幹線道路が建設中となっています。河川は、西に大川が、東には西仁連川が南北に流れています。



仁連小学校区を区域としており、全体には農村地域となっていますが、三和庁舎や三和健康ふれあいスポーツセンター、三和公民館などの公共施設もあり、三和地区の行政の拠点となっています。

② 公共施設の状況

第18地区は、三和公民館、三和図書館・三和資料館、三和健康ふれあいスポーツセンター、仁連小学校、三和中学校、三和学校給食センター、三和地域福祉センター、三和庁舎の8施設が立地しています。三和庁舎、三和図書館などの大規模施設が立地しているため、地区の総延床面積は3万7,841㎡と大きくなっています。人口1人当たりの延床面積は6.7㎡で、市内20地区で最も広がっています。

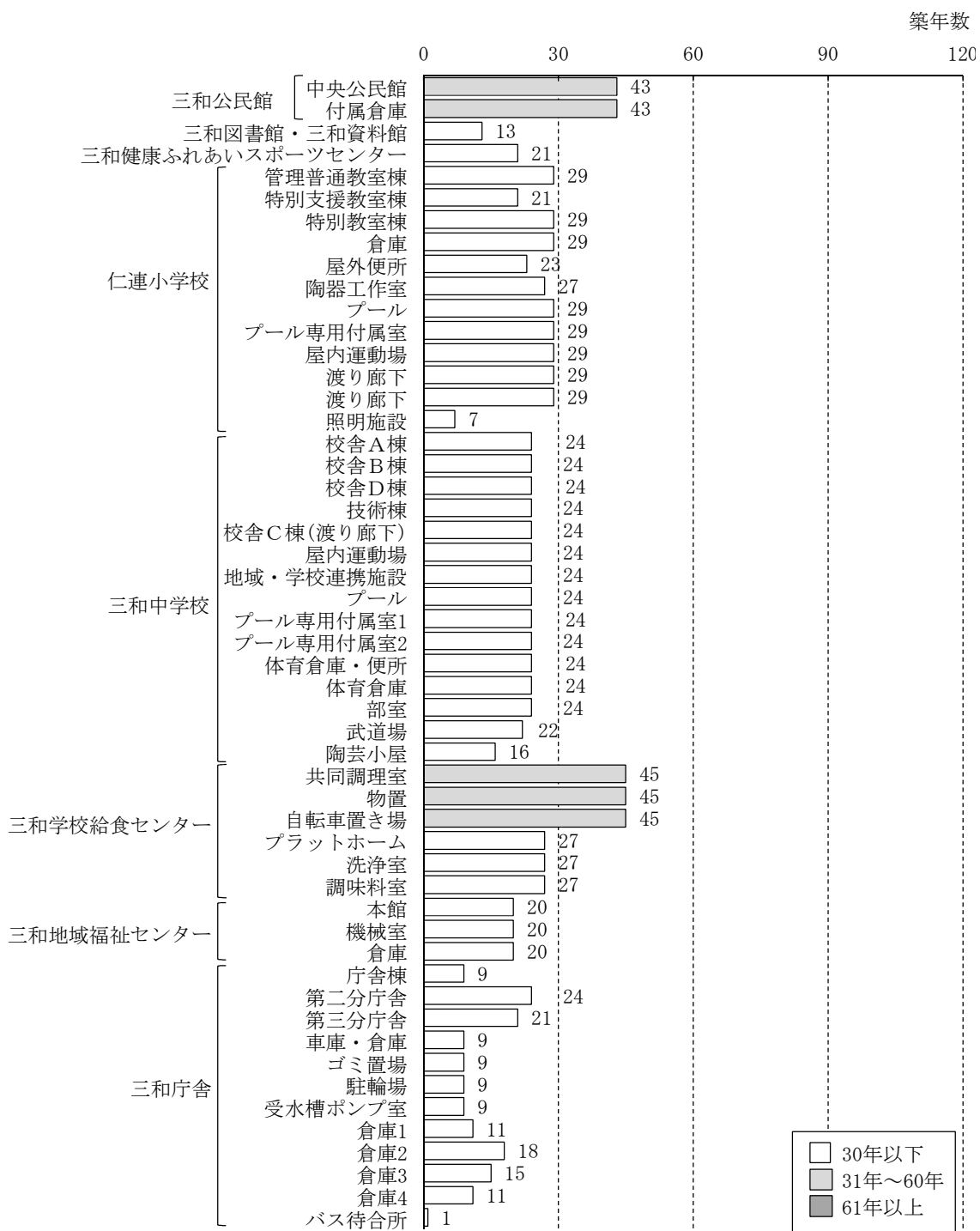
施設の築年数をみると、三和公民館、三和学校給食センターは築40年以上の老朽化した施設もみられますが、仁連小学校、三和庁舎などの多くの施設は比較的新しい施設となっています。

図表4-44 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	三和公民館	1971	1,257.5
2	図書館	三和図書館・三和資料館	2000	2,902.3
3	スポーツ施設	三和健康ふれあいスポーツセンター	1992	5,870.0
4	学校	仁連小学校	1984	5,501.0
5	〃	三和中学校	1958	9,426.0
6	その他の教育施設	三和学校給食センター	1969	908.2
7	高齢者福祉施設	三和地域福祉センター	1993	1,643.6
8	庁舎	三和庁舎	2004	10,332.5

図表4-45 公共施設の築年数の状況



オ 第19地区

① 地区の概況

第19地区は、人口8,742人、世帯数3,061、人口規模では市人口の6.0%を占めています。人口構造をみると、年少人口13.1%、生産年齢人口66.7%、老年人口20.2%で、比較的少子化が進行した地域になっています。



市の南東部に位置し、南北に5km、東西に5kmで、大木の根元に似た形状をしています。西の一部が境町に、南は境町及び坂東市に接しています。道路は、東側を県道結城野田線が南北に、北部を東西に県道つくば古河線が通過し、県道つくば古河線から分岐して南へ中里岩井線が中央南部に通過しています。河川は、東側に西仁連川が、その東側の地区境に飯沼川が南北に流れています。

八俣小学校学区を区域としており、周辺部は土地改良された農地があり、全体には農村地域として集落が点在しています。地区の一部には新興住宅地も形成されています。

② 公共施設の状況

第19地区は、三和農村環境改善センター、三和野球場、八俣小学校、沼影市営住宅の4つの公共施設が立地しています。地区の総延床面積は8,581㎡、人口1人当たり1.0㎡となっています。

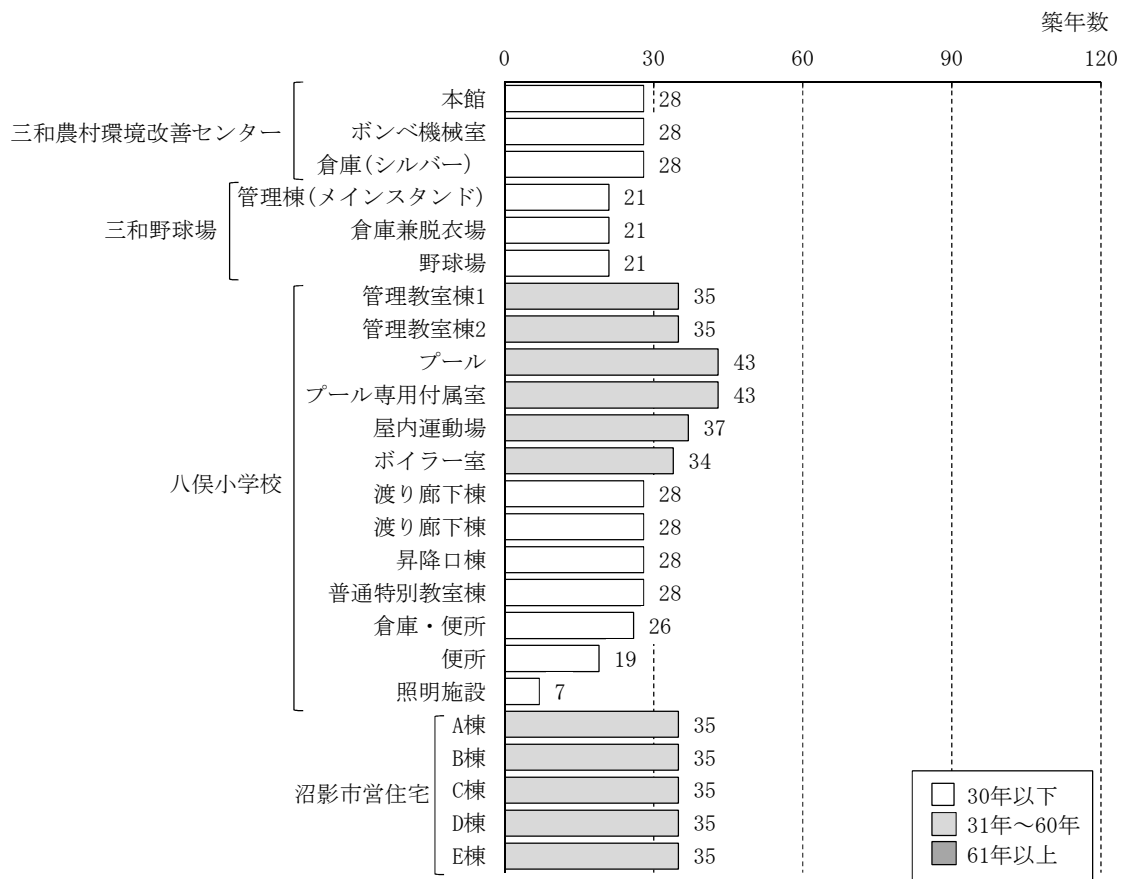
施設の築年数をみると、八俣小学校は管理教室棟、プール、屋内運動場などの主要施設が築35年以上の老朽化したものとなっています。また、沼影市営住宅は築35年が経過しています。

図表4-46 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	集会施設	三和農村環境改善センター	1985	1,529.0
2	スポーツ施設	三和野球場	1992	588.9
3	学校	八俣小学校	1884	5,951.0
4	公営住宅	沼影市営住宅	1978	511.7

図表 4-47 公共施設の築年数の状況

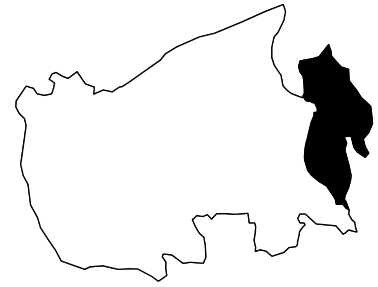


カ 第20地区

① 地区の概況

第20地区は、人口9,593人、世帯数3,353、人口規模では市人口の6.6%を占めています。人口構造をみると、年少人口13.0%、生産年齢人口67.0%、老年人口20.0%となっており、比較的少子化が進行した地域になっています。

市の最も東に位置し、南北7km、東西3kmで南北に長く南端部がとがった形状をしています。東は八千代町に、西の北側一部が結城市に接しています。北東部から県道下館三和線が通過し、さらにその延長として尾崎境線が南まで縦貫しています。東西には国道125号と県道つくば古河線が通過しています。河川は、西側に東仁連川・飯沼川が南北に流れています。



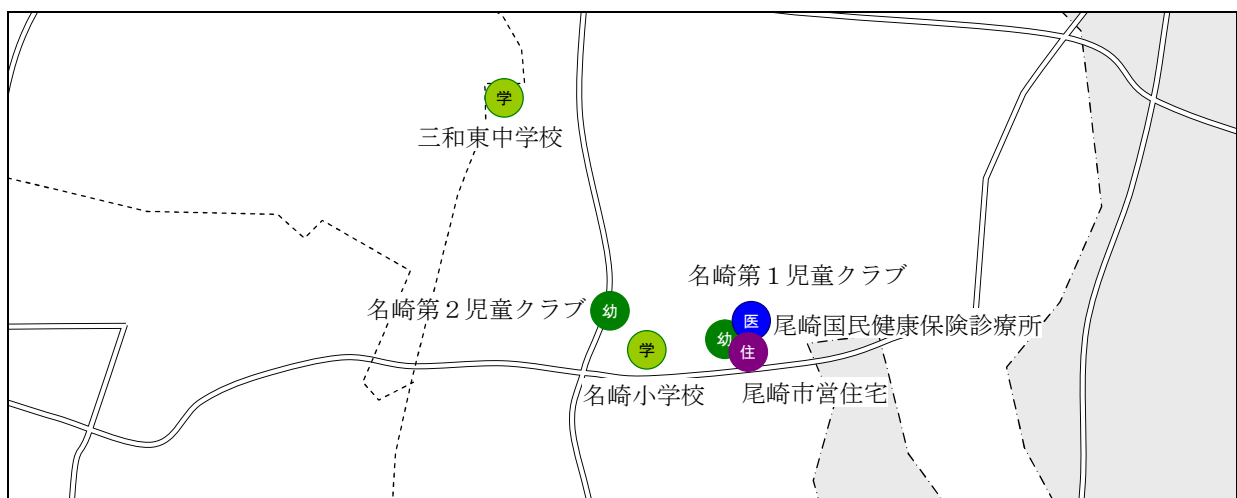
名崎小学校区を区域としており、地区の西側には土地改良された農地が南北に連なっています。全体に農村地域の性格を有しています。

② 公共施設の状況

第20地区は、名崎小学校、三和東中学校、名崎第1児童クラブ、名崎第2児童クラブ、尾崎国民健康保険診療所、尾崎市営住宅が立地しています。施設の総延床面積は1万5,157㎡、人口1人当たり1.6㎡となっています。

施設の築年数をみると、三和東中学校は主要施設の多くが築26年で比較的新しい施設となっています。これに対して、名崎小学校、名崎第1児童クラブ、名崎第2児童クラブ、尾崎国民健康保険診療所、尾崎市営住宅は老朽化した施設が多くなっています。特に名崎第2児童クラブは築69年が経過しています。

図表4-48 公共施設の状況



No	施設種別	施設名	共用開始年度	建物延床面積
1	学 校	名崎小学校	1875	6,055.0
2	〃	三和東中学校	1987	7,877.0
3	幼 児 ・ 児 童 施 設	名崎第1児童クラブ	1980	80.5
4	〃	名崎第2児童クラブ	1945	77.0
5	医 療 施 設	尾崎国民健康保険診療所	1980	526.7
6	公 営 住 宅	尾崎市営住宅	1979	541.0

図表 4-49 公共施設の築年数の状況

